

なぜなぜモテル マンガ考現学



静岡大学助教授

馬居 政幸

618万部発行記念号!!
史上空前! ミラクル新記録達成!!

これは昨年末に出た「少年ジャンプ3-4合併号」の表紙のコピー。このジャンプを筆頭に店頭に積まれるマンガ雑誌の数の膨大さ。それもコロコロからヤンジャンまで子供の発達? に応じて並ぶ。書店の棚を最も占めるのもマンガ本。

教育書関係も例外ではない。古典的な小学館の「学習まんが・日本の歴史」から最新の「教科書まんが らくらく大事典」(学研)まで、専門書? の分野では老舗。ちなみに後者のキャッチフレーズの一つは「初めての生活科がまんがでわかる!」である。ただし、有害コミック問題から宮崎某の「おたく」命名の原因となったコミケットまで、マンガ非難の声も高い。マンガ離れの指摘もある。

だが618万を無視して中学生の生活を語れるか。コロコロに優る小学生の生活情報源はあるか。フーミンとジャンプの世界がドッキングして101回目のプロポーズの視聴率を上げ、ゲームボーイやいちご文庫はマンガメディアの進化……とも考えられるからである。

その意味で、子供理解、教材解釈、授業づくり、……いずれもマンガの世界を読み解くことなく、その未来はない。

このような視点から一年間マンガとつきあってみたい。第一回は「生活科とマンガのシンクロナイズ」。乞うご期待!

1992年4月1日発行(毎月1回1日発行)30巻5号 昭和41年10月7日第三種郵便物認可

授業研究 No.382 '92 4

パワーの出る教室環境づくり36例

- ▶ 評判の教室で発見したもの——有田学級・田中力・向山学級・板倉弘幸
 - ▶ 教室環境の工夫でパワーアップ——柏木英樹・大木馨・黒崎宏一・本間明他
 - ▶ 教室環境・特別な日の楽しい発想——眞木千恵子・榊田安生・俵原正仁・田中裕美他
 - ▶ 授業のパワーアップに役立つモノ情報——高山佳己・横田経一郎・菊池靖志他
- 新連載講座 鈴木清隆・関口芳弘・馬居政幸・小山弘一・前田康裕

明治図書



希望コミックス、各三五〇円
☆『火の鳥』全十一巻

手塚治虫
角川書店、各九八〇円

II 手作り文庫型

学級文庫 活用率アップの ブックリスト

作文集や詩集、面白ワーク集、学級新聞集、学習新聞集、さらに、集会の計画書など学級独自の手作り冊子をそろえましょう。次の本もここに仲間入りさせたいです。

☆『マンガ版チャレンラン大百科』
日本子どもチャレンジランキン

グ連盟 星雲社、七五〇円

☆『教室で役に立つイラスト集』
岩本康裕

明治図書、一三四〇円

☆『教室で活躍するキャラクター集』
福山憲市

明治図書、一九六〇円

III 持ち寄り文庫型

本の紹介カード（『授業研究』のとりびら、一九九一年十月、三七四号、明治図書参照）を添えて持参させてはどうでしょうか。

IV 学習便利文庫型

学習内容に応じて、ダイミングよくそろえたいものです。学校の図書室や市町の図書館から借りてくれば、単元にぴったりの本がすぐそろいます。図書室や図書館のPRにもなります。

V 辞典・年鑑型

☆『日本語大辞典』

講談社、七三〇〇円

☆『おもしろことば（慣用語）事典』
柴田 武

集英社、七〇〇円

☆『まんが百人一首事典』

学習研究社、九一〇円

☆『小学社会科事典』

有田和正

☆『史跡・資料館事典』

旺文社、二六〇〇円

☆『日本のすがた』

小学館、六八〇円

☆『日本のすがた』

国勢社、八九〇円

なお、これらの本はタイプ別に置く場を区別することをおすすめします。

最後に、読書指導におすすめの三冊をご紹介します。

☆『子どもを本好きにするには』
九五〇円

☆『子どもを本好きにするブックリスト』
一〇三〇円

☆『子どもを本好きにする読書指導ネットワーク』
一〇三〇円

（深沢五郎著、明治図書）

生活科とマンガのシンクロナイズ

なぜなぜモテル

マンガ孝現学

①



静岡大学助教授

馬居政幸

一 大学院時代の思い出

「だれだ、こんなものを研究室にもってきたのは、すぐ捨てなさい。」

これは、私が大学院に入学して初めて出席したゼミで、指導教官の口から出た言葉である。「こんなもの」とは少年マガジン。もつてきたのは私。

私は、なぜこのようなことを、それも怒りをあらわにした顔でいうのか理解できず、ただ驚いて立っているしかなかった。私にとって、いくら辞書を引いても意味が読めない英文の社会学のテキストよりも、ジョーと力石の葛藤が描かれたマガジンの方が、現

代を読み解くテキストとして、はるかに価値があつたからである。

昭和四八年の四月のことである。

それから約二〇年。月並みな表現だが、マンガの勢いは止まることを知らず。何よりも、ただ立っているしかなかった私が、全国の先生方が読まれる本誌に、マンガ論を連載するようになったのである。必ずマンガを論じる時が来ると信じて、現在の職場に就いて以後も、ひたすら小遣いをマンガに注ぎ込んできた私にとって、感無量ということになるのだが……。

しかし、本当にマンガに対する評価

は、私が指導教官に叱られた時と変わっているであろうか。

半ば肯定、半ば否定。とりわけ、こゝと教育界に関する限り、マンガの評価は、私の学生時代とそれほど変わっていない。これが日頃、先生方とつきあっている私の実感である。

二 生活科とマンガ

ところで、私はマンガの研究者ではない。マンガは研究のためではなく、好きだから読んできた。目下の研究の中心は生活科。ただし、私の所属講座が社会科教育であることや、今年度から生活科教育法を担当しなければならぬといった、仕事上の義務からではない。生活科が好きだからである。その意味ではマンガと同じである。

少なくとも、私が生活科を好きになったのは、どんなに周りから好奇の目で見られようとも、マンガから離れられなかった私の五感が、まだ生活科

への非難の声が高かった時に、初めて見た生活科の授業に共振（シンクロ）したからである。生活科の生活とは、教師ではなく子どもの生活。それととらえる私の目の高さ（柔軟さ、多元性）は、マンガを読み続けてきたことにより培われた、というのが本格的に生活科学研究に取り組んでの実感である。生活科は単に社会科と理科に代わって新設された教科ではない。小学校の授業を変えることにより、日本の教育全体を再構築するために生まれた教科ならざる教科。これが私の生活科観である。この生活科とマンガがシンクロするとすれば、マンガもまた授業と教育を変える力があるのではないか。これが本連載への私の思いである。

今、教育現場は、生活科を代表に新指導要領全面実施に意気込む（とまどう？）毎日であろう。先生方の熱意に私のマンガ論がわずかでもシンクロできることを願って書き続けたい。

では、現在はどうか。

四 今、学校では

本誌の読者の中にも、マンガ雑誌を愛読する方はおられるであろう。教材として授業でマンガを取り上げた経験のある方もおられよう。学級文庫や学校図書館に、複数の出版社の「まんが日本の歴史」に類する全集を備えている学校も多いのではないか。教材メーカーが送ってきたカタログの中に、マンガという文字を冠したものが多のに驚いた先生も少なくないであろう。

これが半ば肯定の理由である。

だが、少年ジャンプを職員室の自分の机の上に積み上げている先生がどれほどおられるか。逆に、「マンガばかり読まずに少しは勉強しろ」と、子ども達を叱った経験のある先生はかなり多いのではないか。

学校の外では、自分で買って読んでいる先生でも、教室の中で、ドラゴン

先に、私はマンガの評価の変化について、半ば肯定、半ば否定、特に教育界の評価は、私の学生時代と変わっていないと記した。その根拠を述べることから、本連載を始めたい。

三 マンガの評価は変わったか

半ば肯定とは、あえていうまでもないであろう。少年ジャンプを代表に驚異的なマンガ雑誌の発行部数。マンガで描けない分野はないと思われるほどのジャンルの広がり。テレビアニメに止まらず、人気マンガのドラマ化や映画化。現代文化の最も華々しい位置を占めるのがマンガメディアである。

だが、このような傾向は、既に私の学生時代にもあった。私が大学に入学したのは昭和四三年。その時の流行語の一つに次のコピーがあった。

「右手にマガジン

左手にジャーナル」

マガジンは少年マガジン、ジャーナ

ボールを回し読みしている子ども達を見て、自分も仲間に入ろうと割り込む方がおられるかどうか。

休み時間に文学全集を読む子どもには優秀の、カバンの中にジャンプを入れている子どもには問題児のラベリングが行われていないだろうか。

どんなに発行部数が増加しジャンルの幅が広がっても、教師とマンガと子どもとの関係は、基本的に変化していない。その何よりの証拠がこの連載。数多い教師を対象とする専門雑誌にマンガ論を一年間連載するのは、私が初めてのはず。連載が可能になった、という意味では肯定。私が初めて、という意味での否定、というわけである。

今なお、マンガは異端である。

五 学校常識への挑戦もシンクロ？

なぜ、学校の外で許されるのが学校の中ではダメなのか。なぜ、文学は良くてマンガは悪いのか。なぜ、「まん

ルは朝日ジャーナル。右手、左手の主は大学生。全共闘運動真つ盛りの時代である。子どもしか読ま（見？）ないはずのマンガ雑誌と、論文記事のみで左翼知識人しか読まないはずの雑誌が対等に扱われ、バリケードの中（周辺？）の青春のシンボルとして表現されたわけである。同様に、「一枚の絵は一万語にまさる」と、少年マガジン編集長が語ったことが、マスコミの話題になった時代でもある。

マンガの未来は洋々たるもの、と多くの人は思ったであろう。少なくとも、マスコミはそう伝えたはず。

その中で、朝日ジャーナルは買ったものの、右にも左にも行けず持って歩くだけ。少年マガジンだけは確実に読み続けた五年間の学部時代。それでも社会に出るのがイヤで、大学院入学（院？）した私を待っていたのが、冒頭の指導教官の言葉である。

未だ、マンガは異端であった。

が日本の歴史」は図書館にあるのに、少年ジャンプはカバンの中にも入れてはいけないのか。なぜ、子ども達のみでなく先生までも、職員室や教室でマンガを読んではいけないのか。

ところで、生活科の実践もまた、学校の常識に対する「なぜ」の連続。

校長室の名札が一年生の読めない漢字で書かれ、目の届かない高所にあること。学校の池でメダカを飼ったり、どろんこ遊びをしてはいけないこと。芝生の中に入って兎と遊んではいけないこと。これらを疑うことから生活科の体験活動が始まるはずである。

生活科は、子どもの生活に学ぶことから学校と教師が再出発するための教科。その子どもの生活にマンガがあるとなれば、学校と教師のマンガに対する常識に挑戦することこそ、新たな授業づくりの第一歩ではないだろうか。生活科とマンガのシンクロナイズはまだまだ続きそうである。

生活科とマンガのシンクロナイズ(その二)

なぜなぜモテル

マンガが考現学

②



静岡大学助教授 馬居政幸



一 マンガの効用は

「マンガおやつ論」という言葉を本誌の読者は知っておられるか。

子どもが健康に育つために最も大事なのが朝昼晩の食事。それでも育ち盛りはお腹がすく。そうでなくともお菓子を食べたいのが子ども。そのためにやむをえず用意されるのがおやつ。

他方、子どもの仕事は学校の勉強。でも、勉強のみでは疲れて能率も下がる。遊びたいのが子どもである。そのために少し休んで気分転換にマンガを読むこともやむをえない。マンガは食事の合間にちよつと食べるおやつのようなもの。というわけである。

☆おわび☆ 本連載の前号のタイトルに誤りがありました。「考現学」→「考現学」と訂正いたします。ご迷惑をおかけしました。

うなもの。というわけである。

「活字メディアの入門」という言葉もある。一概にマンガを悪いとは思わないがあまり夢中になるのも問題。確かに絵があるから文字のみよりわかりやすい。だからそれだけに論理的な思考力が身につかない。マンガはビギナーの入門書にはいいが、高度な論理の理解は文字でなければ無理。マンガばかり読んで本を読まないのは本末転倒。最近の子どもの読書離れはマンガが原因では……。というわけである。

一応はマンガの有効性を認める。だがそれはあくまで付随的なもの。本来

の目的は別にある。これが二つの言葉に共通するマンガ観。そしてそれは多くの学校と教師の常識ではないか。先日、小学四年の娘に「マンガを学校に持ってきていいですか」と先生にたずねさせた。その夜、私は娘から次のように書かれたメモをもらった。「もし勉強に必要なマンガならいいけど。学校には勉強に必要なものをもってくるから。」

二 楽しくなければ……!

前回、私はマンガに対する学校の評価が二つに分かれることを指摘した。一つは肯定。「まんがが日本の歴史」を代表に学校図書や学習教材にマンガが広く用いられるようになったこと。もう一つは否定。少年ジャンプを代表に勉強や読書の邪魔になるマンガにマイナスのラベルが貼られること。このようなマンガ観を支える論理が先の二つのマンガに対する常識であろう。

他方、同様に前回、マンガと生活科が共振(シンクロ)することを指摘しつつ、これまでの学校の常識に挑むのが生活科実践であるなら、生活科にシンクロするマンガに対する学校の常識を疑問視することこそ新たな授業づくりの第一歩、と結んだ。そこで今回は再び生活科にシンクロさせながら先の二つのマンガ観に挑戦してみたい。

ところで、私は、従来の学校の常識に対する生活科の挑戦として最も重要な点は、授業に「遊び」を積極的に取り入れたことであると考え。「自立への基礎」は「遊び」によってこそ育まれるからである。理由は三つ。

一つは総合性。子どもは、遊ぶために自分の持っている力を全力で発揮する。遊びは、子どもが様々な機会に教えられ身につけた多様な能力を総合して実践的に試す場である。

二つは創造力。子どもは遊ぶために必要なものであればなんと工夫して

手に入れ、遊びを妨げる問題には必死に努力して解決しようとする。遊びは子どもが新たな力を自ら生み出す場であり、一人ひとりの個性や能力に応じて独自の文化を創造する場である。

三つは楽しいこと。これはあえて説明する必要もないであろう。ただし、楽しさが授業の条件になったのは生活科が初めてのはず。刻苦勉励や勤勉という言葉が示唆するように、学校の授業は強いて勉める世界。他方、「楽しくなければ学校じゃない」が、文部省の中野視学官による生活科のコピー。学校を変えるコンセプトとしてこれほど適切なものはないと考える。

三 遊びあつての生活科

「よく遊び、よく学べ」ということが示すように、子どもの成長にとつて遊びと学びは車の両輪のようなものだが、学校は「よく学べ」の部分のみを重視してこなかったか。たとえ遊び

を奨励しても、休み時間か放課後の問題。あくまで授業に差し障りのない限り、という但し書きがついていないか。「遊びおやつ論」である。

あるいは、学習課題の興味づけのために、遊びを授業の導入に用いることはある。だが、「さあこれから勉強です。遊びの時間は終わり。」と声をかけながら、主発問のタイミングをはかる、ということはないか。「授業の入門としての遊び」である。

いずれも「授業あつての遊び」であつて、その逆ではない。

だが、生活科は異なる。たとえば、ダンボールで何かを作つて遊ぶ活動を思い浮かべてほしい。子どもは、ハサミ、テープ、モノサシ、数、仮名などの他に教科で学んだ技術や知識を、自分の身の丈に合わせて用いていないか(総合性)。試行錯誤を重ねながら教師の予想を越える作品を作っていないか(創造性)。ワイワイガヤガヤと笑顔

わがクラスの知的冒険物語

知的冒険は 何でも
こだわ、て みる ことから



神奈川県川崎市＝川崎小学校 小山弘一

(ときには泣き顔) でみんなが夢中で取り組んでいないか(楽しさ)。

生活科が遊びを重視するのは気分転換(おやつ)や動機付け(入門)のためではない。遊びが子どもの成長に不可欠であるから。教師が強い勉めさせるのみでは育めないのが「自立への基礎」。「自ら立つ」ための力は「自ら学びとる」しかないからである。

「遊びあつての生活科」。さらにいわせてもらえば、「生活科あつての学校」。その逆ではない。

ではマンガの場合はどうか。

四 マンガコマの情報は

まず総合性。もし読者の手元にマンガ雑誌があれば、その中から一コマを選んで文章で表現し、文字から理解できる内容と、一コマのマンガを見て理解できる内容を比較してほしい。さらにこの作業をストーリー全体に広げてほしい。服装、表情、身体の動き、持

ち物、背景……。多分、どれほど時間を費やしても完成しないであろう。

マンガコマにいかにも多くの情報が詰まっているか。ましてストーリー全体となれば。マンガは世界を総合的に描く上で最も敵したメディアといえまいか。もちろん、マンガを読む者が全ての情報を理解するわけではない。それは読者の能力と興味次第。ストーリーの追う者、情景描写に引かれる者、主人公と一体化してマンガの世界に入り込む者、ページを行きつ戻りつ考え込む者、全く理解できずに閉じる者。さらに、読み取る情報量のみでなく、読む時間、場所、方法が基本的に読者に委ねられているのがマンガ。

マンガほど読む側に選択の自由度が高いメディアはないはず。そのため、マンガはそれ自体が一つの総合的な世界であるとともに、それを読むという行為を通じて一人ひとりが総合力を発揮する場にもなる、といえまいか。

次は創造性。現実離れや絵そらごと

などの言葉がマンガを非難するときによく使われる。だが、創造とは現実にはないものを新たに生み出すことではないか。空想力こそ創造力の母体であるはず。現実から離れる世界を、絵だからこそ創造できるのである。

さらに、今マンガは読む対象から描く対象に変わりつつある。マンガはそれ自体が創造的であることにより、創造力や構想力を具体化するためのツールともなる。その証拠がマンガ入りの生活科の学習指導案が多いこと。生活科の世界が創造的であるなら、それを表現する手段もまた創造的でなければならぬ。ただし、生活科は身体全体で創造する世界。マンガは平面にペンで創造する世界。その性格は自ずと異なる。マンガのみが総合し創造することができる世界とは何か。そして独自の楽しさとは。さらに論理性や思考力との関係は。今回はここから。

一 何が「いいわねえ」なのか

知的冒険は、小さな違いにこだわることから始まりました。

「一つの花」の学習をしていたときのことです。

場面は、兵隊に行くお父さんをお母さんと娘のゆみ子が見送るところ。

汽車がいよいよ入ってくるというときに、幼いゆみ子は

「一つだけちょうだい」と、ぐずりはじめる。父親は、

「みんなおやりよ、母さん。おにぎり」を――。

と、言う。母親は、夫に答えてからゆみ子をあやす。

「ええ、もう食べちゃったんですの。ゆみちゃん、いいわねえ。お父ちゃん、兵隊ちゃんになるんだって。ばんざあいつて。」(昨年度までの光村版)

ここの「ゆみちゃん、いいわねえ。」が、問題になりました。

「いいわねえ」は、何がいいのかということです。

ほとんどの子は、お父さんが兵隊さんになることだと言いました。

ところが、二人だけそれに異論を唱えました。

おにぎりを全部食べることができたから「いいわねえ」なのだというのです。そして、こう言いました。

「兵隊に行ったら死ぬかもしれないんだから、いいわけがない」

すると、クラスの半数がその意見に同調してしまいました。

別の解釈も出ました。

「丈夫でないお父さんも兵隊になれば、よその人から変な目で見られなくてすむからよかったねと言っているのではないか」

賛成が一気に増えたことから元気づいた「おにぎり」派は、こうも言いました。

「もし、兵隊に行くのがよかったと言

マンガと活字、どちらが優れたメディアか(その一)

なぜなぜモデル

マンガ考現学

③



静岡大学助教授 馬居政幸



一二つの偏見

昨年十二月、全国から集った若い先生方と共に、マンガ「釣りキチ三平」の作者として有名な矢口高雄氏の話しを聞く機会があった。「連続セミナー」授業を創る会(代表 谷川彰英)が主催し、渋谷区の大向小学校で開催された「生活科シンポジウム91in東京」における特別講演であった。

矢口氏は、自然と共に育つことの大切さを、自身の子どもの時代の体験を交えて詩情豊かに語った。生活科とシンクロする矢口氏の素晴らしいマンガの世界が、先生方の心に深い感銘とともに

に描き込まれたであろう。

だがその中で、矢口氏は大人とりわけ教師にあるマンガへの次の二つの偏見を厳しく指摘した。

①マンガは子どもの読むもの

②マンガは低俗、俗悪なもの

そして矢口氏は、多種多様なマンガの現状を紹介しつつ、①が文字通り根拠のない偏見であると批判し、②の偏見には次のように反論した。

「マンガが悪くて小説はいいと言われる。はたしてそうだろうか。確かに文章は心理描写にふさわしい方法である。だが、情景描写、記憶に残る度合いに

ついでには絵に及ばないだろう。文章と絵、それぞれの良さを合わせ持つのがマンガである。」

精緻な情景描写と巧みなストーリー構成で評価の高いマンガ家矢口高雄ならではのマンガ論である。

前回、私は生活科における遊びの意義を、総合性、創造性、楽しさという三つの視点からとらえ、マンガもまた総合的かつ創造的であることを指摘した。ただし、実際に身体全体で表現する生活科の世界と、紙の上にペンで創造するマンガの世界では、その性格は自ずと異なる。その意味で、マンガのみが総合し創造する世界とは何か。それと論理性や思考力との関係は。さらにマンガ独自の楽しさとは。

これらについて、マンガを一つのメディアと考える観点から二回にわたって考察したい。その第一回として、今回は矢口氏のマンガ観をヒントにしながら、改めてマンガというメディア独

自の特性について考えてみたい。

二 マンガの特性とは

もし読者が、誰かにマンガの特性とは何か、と問われた時にどのように答えるであろうか。

内容では「風刺や笑い」、表現方法では「誇張や省略」をあげる方がいれば、かなりマンガの歴史に関心のある方。古典的には鳥獣戯画、近代に入つてはビゴーの一連の作品が典型。いずれも歴史の教科書に掲載されることの多い作品である。その伝統を受け継ぐのが新聞の四コママンガや時事評論的な一コママンガ。これらをマンガ本来のあり方と考える方も少なくない。

だが、手塚マンガの誕生から劇画の時代をへて、現在の主流はストーリーマンガ。日本のマンガが広く世界各国に読者をもつ理由でもある。その担い手の一人が矢口高雄氏。

このようなマンガ文化を支えている

のが毎週百万冊単位で印刷されるマンガ週刊誌とそれを買う読者の存在。マンガの古典と伝統がどうであれ、現代を生きる人間にとつてのマンガメディアの意味を、風刺、笑い、誇張、省略という四つのコンセプトで解釈することは不可能。いずれもマンガ表現を構成する要素ではあるが、マンガメディア固有の特性ではない。

他方、もう読者の中にはいないであろうが、今なお前紹介した「マンガおやつ論」や「活字メディアの入門」に類するマンガ観に固執する方も学校の中にはおられよう。これも現代社会の意味を読み取れない人。子どものためといいながら、過去の虚像を未来の使者に押しつけることを教育愛と勘違いしている人のようなもの。

この人達のマンガ観の前提には、活字との対比でマンガを次のように位置づけるメディア観がある。

活字メディアは難解で高尚

漫画メディアは低俗でわかりやすいだがこれも、矢口氏の指摘をまっすぐでもなく、現在のマンガの世界に当てはまらない。理由は書店に毎週積み上げられるマンガ雑誌や書棚に並んだコミック類を開けば一目瞭然である。

スピリッツに連載中の吉田戦車氏の「伝染るんです。」のような起承転結の伝統を無視した四コママンガは「わかりやすい」か。「萬画宣言」のもとに日本の歴史に挑む石ノ森章太郎氏の作品は「低俗」か。大友克洋氏の「童夢」や「アキラ」に代表される著者独自の世界認識を精密な絵と論理により表現したマンガをどう評価するか。そして、矢口氏の作品は……。

もちろん、「低俗でわかりやすい」というマンガも多い。だが、それは活字メディアも同じ。その意味で、このような作品の質を評価する基準を、マンガと活字というコミュニケーション(情報の伝達・交換)の媒体(メディア

わがクラスの知的冒険物語

知的冒険を支えた
時間と1-1

神奈川県川崎市=川崎小学校 小山弘一



次の二つの観点からとらえる。

ア)の特性を比較することに用いること自体が問題といえる。では、マンガメディア独自の特性とは何か。

矢口氏は、心理描写に優れた文章表現の良さと情景描写に優れた絵による表現の良さを合わせたもの、としてマンガを位置づけた。この場合も、「良さ」という言葉に示されるように、作品の評価を前提とした観点である。

創造者である矢口氏にとって、作品の質は無視できない要素だからであらう。だが、内面の心理を見事に描いた絵もあれば、自然の情景を名文で描写した作品も多々ある。

ただし、文章と絵を「合わせ持つ」という視点には注目したい。これこそ「文」でも「絵」でもない「マンガ」メディア独自の要素だからである。

三 絵、コマ、吹き出し、話し言葉
私は、メディアとしてのマンガの独
自性を、内容の質や描き方ではなく、

- ① “絵”と“文字”が“複合”した“コマ”の進行によってのみ可能な表現の世界
- ② “話し言葉”によるコミュニケーションを“絵”で表現する世界

表現の形式（二コマ、四コマ、ストーリー……）や内容（ギャグ、ラブコメ、シリアス、批評……）がどうであれ、「絵」と「文字」と「コマ」のないマンガはない。さらにより重要なのは、マンガはどのような内容も、「吹き出し」に象徴されるように、「人が話す」というフィルター（コミュニケーション）を通して「絵」の連続として表現したものであるということ。

マンガはいかに難解で高度な知識であらうと、話し言葉に翻訳しなければ描けない。さらに話者の表現や動作、話題の対象や背景を絵で描くことと

セットで表現しなければならぬ。
これがどれほど高度で困難な知的作業であるかは、子どもと同じ目の高さで授業に取り組まれている先生方なら理解されよう。そして、そのような先生方に育まれる子どもの顔は笑顔で輝いているはず。同様に、マンガ独自の楽しさの源はここにある。

すなわち、「吹き出し」の中が「話し言葉」ということは、現代日本人の言葉であるということ。その言葉を話す以上、「コマ」に「絵」として描かれた世界は、人の表情も立ち居振る舞いも背景も、「現代の日常性」というフィルターのもとの表現になる。

マンガは、その表現方法の必然として、描く者と読み（聞き？）取る者双方の日常生活（話し言葉の世界）という現実（リアリティ）から離れることができるメディアである。

それがなぜ独自の楽しさの源になるのか。次回はここから。

一 時間とノートで冒険を保障する

今回は、知的冒険を保障した「追究の時間」と「追究ノート」のことを書くことにします。

私のクラスでは、毎週火曜日の五時間目が「追究の時間」になっていました。この時間になると各自「追究ノート」を持って、図書室に集まります。好きなテーマを決めて、本を探し、わかったことをノートにメモしていくという活動をします。

前回までに書いてきた追究の多くはこの時間に行われました。こうした時間保障をして、全員に調べることを面白さを体験してもらうことをねらいました。

授業で生まれたハテナをテーマにする子、たまたま見つけた本が気に入って、それをテーマにする子、一貫して同じテーマを追う子と様々です。

ノートは、一括購入しました。教室

二 「追究の時間」はアオムシから始まった

で保管し、家庭で調べたことは、別の紙にメモし、学校でこのノートに貼りつけるようにしました。

ノートに毎回、私の評価を記入しました。メモがあればA、情報がよくメモしてあればA A、さらに自分の感想が書き込まれていればA A Aとしました。また、授業に関係のあることを調べた子のノートは、授業中に意図的に活用し、励ましました。

この「追究の時間」は、思わぬことから始まりました。

理科の学習でアトムシの観察をしようとしたときです。

アオムシは四匹、学習グループは八つ。アオムシがどうしても足りませんので、苦肉の策として半分のグループは図書室に行つてアオムシや蝶を調べていることにしました。

マンガと活字、どちらが優れたメディアか(その二)

なぜなぜモデル マンガ考現学



静岡大学助教授
馬居政幸

④ マンガ理解のヒント

活字表現と比較してマンガメディアの特性とは何か。とりわけその楽しさの秘密はどこか。前回、この問いを解くヒントとして二つ提示した。

- ①「絵」と「文字」が「複合」した「コマ」の進行によってのみ可能な表現の世界
- ②「話し言葉」によるコミュニケーションを「絵」で表現する世界

このヒントを見て、内容が面白いからこそマンガは楽しいのではないか、

と疑問をもたれた方がおられよう。前回、その理由として二つあげた。

一つは現在のマンガの世界が極めて多様であること。それを象徴するのが伝統的な新聞のコママンガや四コママンガが傍流になり、主流を雑誌のストーリーマンガに譲っていること。愛蔵版と銘打ったハードカバーの豪華な単行本形式のマンガも多い。そこで描かれる世界の特色を、面白いから、の一言でかたづけるには複雑すぎる。

ただし共通点はある。絵のみでも文字のみでもなく、両者が複合してコマの中に創造された世界であること。こ

れがヒント①である。

もう一つの理由は、活字とマンガというメディア(情報媒体)の特性を、表現内容(面白いなど)を評価する基準では比較できないこと。またそれと関連して、「活字メディアは難解で高尚」、「マンガメディアは低俗でわかりやすい」という評価が、事実の上でも、価値基準の上でも、マンガの現状への無知を自覚しない、文字通り偏った見方であることも指摘した。

では文字のみの活字メディアに対して、絵と文字が複合することにより何が異なってくるのか。その答えのヒントが②。マンガは単に絵と文字が複合しただけでなく、そこに描かれるのが「話し言葉の」世界であること。

話し言葉とは日常生活の中で使う言葉。もし手元に「まんが日本の歴史」(出版社は問わない)があれば開いていただきたい。平安時代の紫式部も江戸時代の芭蕉も、「吹き出し」の中の

言葉は現在の話し言葉ではないか。

紫式部も芭蕉も、現在の小学生が日常使う言葉で、平安時代や江戸時代の文化を読者に語りかける。すなわち、どのような世界を描こうとも、読者が普段話す言葉で表現しなければならぬ以上、読者の日常生活から離れることができないメディア。これがマンガである。そして、マンガメディア独自の「楽しさの源」がここにある。

その理由は何か。これが今回の課題である。それを明らかにするためにもう一つヒントを提示したい。

- ③読者の変化とともに「成長」し「進化」するメディア

二 成長(進化?)するメディア
先に現在の主流がストーリーマンガであると指摘した。だが、最初からストーリー中心であったわけではない。

内容も多様ではなかった。マンガを読む層の広がりに応じて変化したのである。マンガが変化するにより読者層を広げたといった方が正確かもしれない。「低俗で分かりやすい」という評価に甘んじ、「風刺や笑い」というジャンルに安住し、「誇張や省略」という表現技法に頼っていたならば、現在の広範で膨大な読者層を獲得できなかったはずである。

子どもの頃にマンガばかり読んでいたから大人になってもマンガから離れられない。このようなマンガ批判を聞くことが多い。だがこれは話が逆である。読む価値があるマンガがあるからこそ、電車の中で中年サラリーマンが膝の上に堂々と広げるのである。

子どもはいつまでも子どもではなく成長して大人になる。しかも、その成長のあり方は普遍的なものではなく、時代と社会によって変化する。どんなに流行したものであっても、それを用

いる者の成長と変化に対応できなければ消えていかざるをえない。

授業も同じではないか。日々成長するの子ども。それも一人ひとり異なるはず。学習指導要領も社会の変化に応じて改訂され、教育内容や教科書も変わる。この変化と格闘する教師の苦悩と研究と試行錯誤に支えられて、授業は創造されるはず。もし、今年の授業が去年と同様に展開できていると考える教師がいれば、よほど力量のある方か、子どもの現実への無知を自覚できない方かのいずれかであろう。

マンガはより厳しい条件の基で創造されてきた。六歳になった子どもは学校に「楽しくなくても」いかなければならない。マンガは「楽しくなければ」買ってくれない。いつまで買ってくれるかもわからない。おまけに、活字メディアと異なり世論は助けてくれない。読書離れの理由にマンガをあげることがあっても逆はない。(データはマン

わがクラスの知的冒険物語

教師自ら

知的冒険者をめざして



東京都大田区＝道塚小学校 野田芳朗

① そんなことってあるの!?

「人一倍」という言葉の意味をご存じだろうか。

五年の朋は、「なんで二倍になるのに、人一倍つていうの?」と日記に書いてきた。

このハテナは意外だ。「一倍」とは「その数自身」のことである。これは二年のかけ算のところで、しっかりと習う(昨年度、そう教えてきた!)。

にもかかわらず、どうして「二倍」の意味になるのか。「新明解国語辞典第四版」(三省堂)には、「その人の熱心さやなまけぶりなどが普通の人の二倍であること」と書かれている。

不思議だ。「もう一人分」というように読みとればいいのだろうか。

こういう時、どうするか。

- (1) いろいろな辞書で調べてみる。
(2) 「週間朝日」連載の「日本語相

談コーナー」に質問する。

(2)はすぐには解決できない。当面(1)でいくしかない。で、私はどうしたか。

「人一倍」をいくつかの辞書で調べてみた。しかし、いずれも似たような記述で、ハテナの解決にはならなかった。

その時、ふと、あることを思いいついた。

では、「一倍」を調べてみよう
じゃないか!

「一倍」そのものにこだわったのである。調べてみて、たまげた。

「新明解国語辞典第四版」には、意味が二つ載っていたのである!

- その数自身。
◎「二倍」の意の古語的表現。

「エッ、「二倍」の意味があるんだっ

ガが読書人口を支えていることを示しているのだが。この点は次回に)

世論の風圧の中で、うつろいややすい読者の「楽しさ」の基準に一喜一憂しつつ、学校でも家庭でも得ることができない「楽しさ」を、絵と話し言葉とコマという制約のもとでいかに表現するか。そのために想像と創造を積み重ねて今がある。楽しさの基盤にある読者の日常の現実(リアリティ)の変化に適合できずに消えていったマンガと作者は多い。適者生存、競争と淘汰の過程を経て現在のマンガがあるといえよう。「進化」とする理由である。

では進化の筋道は。私見では二つある。表現方法の「自由競争」と表現対象による「棲み分け」である。

三 マングの発達課題

再びマンガを見てほしい。ただし、「まんが日本の歴史」のみでなく、コロコロ、ジャンプ、ビッグコミックな

ど、書店に並んだマンガ雑誌と比較して、絵のタッチやリアル度、文字の種類や大きさ、コマと吹き出しの形や位置の違いを確認すること。次いで「のらくろ」などの戦前のマンガを探して比較してほしい。絵、文字、コマ、吹き出しは共通でも、現代マンガの表現がいかに自由かが理解されよう。

だが自由は競争とセット。勝敗の決定権は消費者である読者。読者は多様かつ変化する。無制限の自由競争は種の滅亡を招く。それを防ぐのが「棲み分け」の知恵である。雑誌に描かれたマンガの世界が誰を対象にしたものかを想像してほしい。多様にみえるマンガも、人の成長・発達に応じて分化していることに気付くであろう。これがマンガの「棲み分け」の知恵。その一例として、私なりに発達課題とのかかわりでマンガ雑誌を分けてみよう。

(1)少年期―学校の知識とは異なる子どもだけの世界に関する情報の提供。

(コロコロ、ボンボン……)

(2) 青年前期―男の子が男に変わる世界を、価値基準は単純明快に、場面は多種多様に描く。(少年ジャンプ、少年マガジン、少年サンデー……)

(3) 青年後期―男と女として自立し社会人になるためのノウハウの提供と、その際に生じるとまどいへのカウンセリング。(ヤングジャンプ、ヤングマガジン、スピリッツ……)

(4) 壮年期―現代を生きる一人の人間として必要な知識や行動様式を、詳細な調査と分析に基づく重厚なメッセージとリアルな絵で表現する。(モーニング、ビッグコミック……)

これに女性対象のマンガが加わり、現在もなお自由競争による淘汰と棲み分けがせめぎあい、進化の過程は進行中といえよう。では活字メディアの場合はどうか。その代表である教科書は進化したか。今回はここから。マンガと活字の優劣の決着はそこで。

マンガメディアは進化する、教科書は？

なぜなぜモテル マンガ考現学

⑤



静岡大学助教授
馬居政幸

一 実習生からの情報

「先生、教科書、変わったですネ、ドラえもののび太と……えーと、なんといいましたっけ……、おんなの子……のつていました。」

「へー、ソウ……、何年……どの教科書」

「ハイ、四年か五年……、一年だったの……わかりません……」

これは、今年の六月、教育実習を終えて挨拶にきた私の研究室の女子学生と私との間で交わされた会話である。そのため、言葉がかなり省略されていることをご容赦願いたい。

会話の意味は、教育実習で一学年に

配属された学生が、他の学年の子どもがもっていた教科書の中に、「ドラえもん」の主人公（？）である、「のび太」と「しずかちゃん」の絵を見たということ。ただし、自分は一年が担当だったので、その教科書がどの会社のものかは知らないとのことであった。私が本誌にマンガについて連載していることを知っていて、現場の情報をもってきてくれたわけである。

これまで、私は活字メディアとの比較で、マンガメディアの特性として次の三点あげてきた。

- ①「絵」と「文字」が「複合」したコマの進行によってのみ可能な表現の世界
- ②「話し言葉」によるコミュニケーションを絵で表現する世界
- ③読者の変化とともに「成長」し「進化」するメディア

特に前回は、③のマンガの進化にこだわった。変化する読者の選択を求めた「自由競争による淘汰」と「棲みわけの知恵」が、現在の膨大なマンガの世界を生み出したことを述べた。では活字メディアの場合、特にその代表の教科書は進化してきたのか。ここからが今回の課題と予告した。

二 私の誤算

このように書いた時に、私が描いたマンガメディアと活字メディアの優劣の図式は次のようなものであった。

「教科書は進化していない」

「活字メディアは進化しない」

「マンガメディアが優れている」

ところが、学生が実習から帰ってきたのは前回の原稿を編集部に送ったあと。そして生じたのが冒頭の学生との会話である。

活字メディアの代表と考える教科書にマンガとは……、私の図式が崩れるかも……、と不安になりつつ、手持ちの社会科学教科書を急いで調べた。のつていたのである。

東京書籍の「新しい社会科」の四年の下と五年の上と下であった。

三 「しずかちゃん」登場
下図が「しずかちゃん」が初めて出てくる頁である。



写真から、どんなことがわかるか、話し合ってみよう。



水の通る橋 右の写真を見ながら、みんなて話し合いました。

「水がふき出しているよ。これはなんだろう。」

「きつと橋だよ。でも、なぜ橋の、とちゅうから水が出ているんだろう。」

「橋の下が丸くなっているよ。かわった形の橋だね。」

「どうして、こんな橋をつくったのかしら。」

いろいろ感想を出し合っていると、先生が次のような話をしてくださしました。

「この橋は、熊本県矢部町にある通潤橋という名の橋です。今から140年ほど前に、石を組んでつくったものですよ。」

みんなは、このめずらしい橋のことが少しずつわかってきました。

水の通る橋は、どんな人たちが、なんのためにつくったのでしょうか。



4

四年下の四頁、「きょうどを開く」という単元の最初の部分。「しずかちゃん」の「絵」は欄外にある。

彼女が「話す言葉」、すなわち「吹き出し」の中の「文字」は学習課題。

本文の記述も、顔の「絵」が示された四人の子どもの「話し言葉」の形式で進められている。

この右頁は、熊本県矢部町の通潤橋を紹介した写真と地図の折り込みグラビア。それを広げると、左上に「のび太」と「しずかちゃん」が空から「タケコプター」で橋を観察している絵。右下欄外には二人の会話として学習課題

題が提示されている。

明らかに、私が先に指摘したマンガメディアの手法が用いられている。

四 教科書は進化したのか？

現在、全国の小学校では、移行期間を終え、新指導要領に基づき授業が行われている。昨年、この実施に先立って社会科の教科書が変わったと、執筆にかかわった先輩から聞いた。そのため、知り合いの編集者にたのんで、とりあえず収集可能な複数の社会科教科書を一応は取り寄せておいた。

だが、「教科書は教科書」と思い、詳細に見ることはなかった。どうも偏見であつたようだ。今回調べてみて、確かに変わったといえよう。マンガの手法が取り入れられたのだから。

東京書籍以外の他の会社の社会科教科書でもこの傾向は同じ。「しずちゃん」に代わるイメージキャラクターが、欄外や本文の中で、吹き出し

や会話文で子どもに語りかける。このような表現が随所に見出された。

では、前回の予告の前提にあつた私の図式は崩壊したか。半ば肯定。半ば否定。これが現時点での私の結論。

半ば肯定とはもちろんマンガの手法を取り入れたこと。教科書は「進化しつづめる」といわざるをえない。

ただし、「しずちゃん」が原因ではない。子どもと同じ目の高さでの表現を試みているからである。

競争と淘汰によるマンガメディアの進化の基準は、あくまで読者が読んでくれるかどうか。マンガはそのメディアの特性から、書く側や編集する側ではなく、見る側、読む側に則して表現し続けなければならない。

教科書はマンガの手法を取り入れたことにより、教える側から学ぶ側に視点が転換したといえる。これが教科書も進化したとする理由である。

半ば否定とは何か。やはり教科書は

教える書として、活字メディアの神話から脱していない。その意味で進化していないと言わざるをえない。その理由は次回で、ということになるが、ここで読者に宿題。現在使用中の社会科教科書のどの場面に、マンガの手法が用いられているか調べてほしい。否定の意味は自ずと理解されよう。

研究会案内

日時 平成4年10月23日(金)

主題 子どもが未来を切り開く力を培

う 生活科・社会科授業の創造

内容 公開授業・分科会他

講演 新しい学力観に立った

生活科・社会科の授業

谷川彰英先生

会場・問合せ先 谷津小学校

〒275 習志野市谷津5・1・32

☎0474(七七) 八二八二

わがフラスの知的冒険物語

みんな盛り上がっちゃおう!



東京都大田区=道塚小学校 野田芳朗

① 辞書のすすめ(つづき)

我が愛すべき『新明解国語辞典第四版』(三省堂)の、あれ?? と思わせた箇所とは、いったい何か!?

* * *
将棋の用語で「こまを落とさずに対等で指すこと」を「平手」と言う。

それに対して、相手と実力差がある場合、こまを落として勝負をしたりする。実力差が小さければ、「香車」などという小さいこまを落とす。実力差が大きければ、「飛車」や「角」という大こまを落とす。

たまたま、「香落ち」の項を見た時である。こう書いてあった。

〔将棋で〕一方の人が香車を一つとりのけてさすこと。三段の差とされる。(304頁)

ここで私は何を思ったか。

「香落ち」が「三段の差」だとしたら、「角落ち」は何段の差になるのだろう——そう思ったのである。

早速、ひいてみた。見て、たまげた。こう書いてあったのだ。

〔将棋で〕二段の差がある時に、高段者が初めに角を置かないというハンディキャップを持って対局すること。(202頁)

書き方がずいぶん違う。執筆者が違うのか。待遇が違うなとも思う。

何よりもたまげたのは、「二段の差」である。

大ごま(角)の方が「二段の差」で、小さいこま(香)の方が「三段の差」であるはずがない!

そこで、今は亡き父が病床で愛用していた岩波の『広辞苑第一版』を開いてみた。

結果は如何に!?

教科書はマンガを越えられるか

なぜなぜモテル

マンガ考現学

⑥



— “しずかちゃん” はいるけれど
私の研究室の学生が、教育実習で見

教科書は進化しているか？

マンガと活字、
どちらが優れたメディアか？

マンガは進化するメディア！

活字メディアは進化するか？

活字メディアの典型が教科書

取り上げたのは東京書籍の社会科教科書四年下の四頁。欄外に「しずちゃん」の絵と吹き出し。本文に四人の子どもの会話文とマンガ風の顔の絵、いずれもマンガの手法。教科書も進化したことを認めた。

だが、やはり教科書は教科書。教える書として、活字メディアの神話から脱しておらず、進化していない……と、指摘したところで今回は紙数がつきた。したがって、今回のテーマは、教科書

は進化していない、とする理由を明らかにすることである。

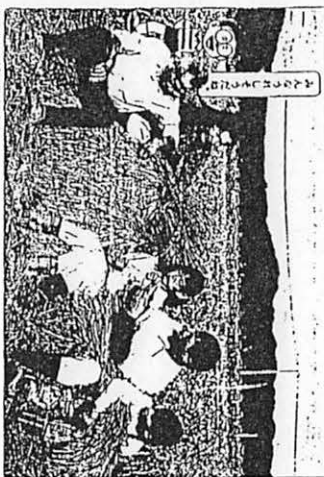
ところで、前回、読者の皆さんに、現在使用中の社会科学教科書に用いられたマンガの手法を調べることを宿題にした。出した以上、私も改めて手持ちの社会科学の教科書を調べ直した。

やはり教科書のマンガは「マンガであつてマンガではない」と、結論づけるをえなかつた。

その理由を、前回と同様に東京書籍の社会科教科書で論じたい。次頁の図は5年上の最初の単元、「わたしたちの生活と食料生産」の「2 米づくりのさかんな庄内平野」の部分、稲作農業における機械化の問題点を指摘した二四頁と二五頁を縮小したものである。

二 教科書は誰のため？

まず、改めて、私がマンガの特色と考える次の三つの基準にしたがって、縮小図を見ていただきたい。

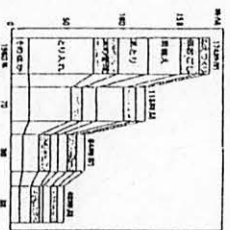
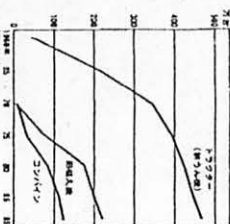


の面についてお話を聞かうといふ
話だん一五



（昭和九年、三田製菓工業）

耕地の整備と傾斜地 佐島さんは3.5haの田と20aの畑を持っています。自らの田には、37人もの農家からたのまれて、90aの田のせむせむが10aでしたが、1979年（昭和54年）に昭和三十八年に入ると、田の区画が広がり、45aになり、大規模で生産のよい農家環境を作った農家ができて、うけになりました。

[illegible]

者とくらべて、植物の生長はすいぶん遅に
りました。しかし、耕地の堅固にかつた資
料や肥料の代金を、返さなければならず、新しい
なやみも生まれています。



114

この子は家で全然勉強しない生徒であつたが、これ以後、勉強するようになって来た。

向山洋一氏は言う。

まず全体に大きな課題を与えよ
然る後に、個別に指導せよ
(授業の腕をあげる法則)

まさにそうである。

二 自分の教科で

教科指導でも原理は同じである。全体に指導した後、必ず個別指導の時間を取ることである。必ずといって言い程、全体指導の波に乗ってこれない生徒がいる。その生徒は授業中のどこかで救つてあげなくてはいけない。それは、個別指導である。

私の教科は英語である。

英語は、授業はほとんど口頭練習から始まる。これは全員を対象に行うの

で、おおざっぱにしか、習得状況が分からない。

例えば、否定文を習つて、口では言えても、書かせると、否定文が作れなかつたりする生徒がいる。そういう生徒の発見はやはり、プリントであり、指導は個別である。

「あの後ろにコトを入れるだけだよ」とか、複雑な文法のときは、もう一度最初から説明を、その子向けに繰り返すとか、手を下す。そして、個別指導時を利用して、とりあえず学習課題が自力でできるようになるまでは、何度か、机間巡視し、様子を見たり励ましたり、面倒を見る。

その後は同じような形式の問題が数多くのついているプリントをやらせる。これは、「分かつたという状態」から「できる状態」にするためである。

授業ではここまでが限界である。

これ以上は時間が取れない。

以上、できない子への指導の手だて

教科書はマンガを越えられるか(その二)

なぜなぜモデル マンガ考現学

⑦



静岡大学助教授
馬居政幸

一 改めて「しずかちゃん」に注目
教科書はマンガを取り入れることに
より進化したのか。

これを検証するために、前回、東京書籍の社会科学教科書に掲載された「しずかちゃん」にこだわった。まず、マンガを取り入れたということで、一応の進化は認めた。だが、やはり「教科書のマンガはマンガであつてマンガではない」。そのため進化も中途半端、というのが前回の結論であつた。

その理由は二つ。一つは、姿は「しずかちゃん」でも、その実体は教師であつたこと。二つは、似顔絵とともに紹介された「佐藤さんの話」が「標準

語」であつたこと。この二つ目を詳論することが今回の課題と予告した。

ところが、この予告に答える準備をしている過程で、一つ目の理由を修正する必要があるとわかった。「教科書のマンガもやはりマンガ」ということに改めて気付いたからである。加えてそのことが、「教科書はマンガを越えられるか」という前回よりのテーマを判断するために、非常に重要なポイントになることにも気付いた。

そのため申し訳ありませんが、以下の拙文は、前回に縮小掲載した教科書を横に置いて読んで戴きたい。

を、私なりに述べてみた。何も具体的な場面が提示できないこと申し訳なく思う。

* * *
ここで、研究会のCMを……

わかる、できる、楽しい
英語教材プリント研究会

教師の作るプリントには、いろいろなアイデアと知恵と指導技術が盛り込んであります。

そんなプリントをみんなで交換しませんか？

興味のある方は葉書1枚にて、左記までご連絡を……

〒368-01 埼玉県秩父郡小鹿野町飯田五二五 瀧沢広人

お待ちしております。

二 進化の基準は？

私は前々回の連載5回で教科書の進化に関して次のようにのべた。

競争と淘汰によるマンガメディアの進化の基準は、あくまで読者が読んでもくれるかどうか。マンガはそのメディアの特性から、書く側や編集する側ではなく、①見る側、読む側に則して表現し続けなければならない。

教科書はマンガの手法を取り入れたことにより、②教える側から学ぶ側に視点が転換したといえる。これが教科書も進化したとする理由である。

これが早合点であるとして、教科書執筆者の視点は、読者である「子ども(学習者)」の目ではなく、教える側の「教師の目」にあわされている、と反省した。ここまでは前回の論点。

だが、この反省自体がどうも早合点であつたようだ。教科書の場合、傍線②の「学ぶ側」と「教える側」は、ともに傍線①の「見る側、読む側」になりうることに気付かなかつたからである。二重の早合点の原因は、読者を学ぶ側に限定したことであつた。

やはりマンガは読者（教師という）の要望に忠実であつた。（だからこの教科書のシェアが高いのかも？）
そのため下線②以下を次のように修正したい。

教科書はマンガの手法を取り入れたことにより、②教える側からみれば進化したが、学ぶ側に視点が転換したとはいえない。したがって、学習者にとって教科書は未だ進化の前段階にある。

さらに、そのあとに次の文を加えた。

そのため、今なお教科書はマンガを超えることはできない。

この理由を改めて教科書のマンガに即して考えるのが今回の課題である。

三 仮面にも効用が

「機械化されて、農作業はずいぶん楽になったけど、問題もあるのね。」

これが「しずかちゃん」の仮面を付けた教師の言葉である。何故そう判断するのか。ヒントは絵の横の本文。

「昔とくらべて、稲作の仕事はずいぶん楽になりました。しかし、耕地の整備にかかった費用や機械の代金を、返さなければならず、新しいなやみも生まれています。」

このページで「教えたい内容」を要約し結論づけた部分。教師が子ども達に理解してほしい部分でもある。

その教師の期待に応えるかのように

「しずかちゃん」は同じ内容を繰り返す（ダメ押し）。ということは、彼女は教室の中で様々な顔と名前をもって学んでいる（学んでいない？）子ども達の代表ではない。あくまで教師が理想とする子どもの代表、あえていえば教師の代弁者、すなわち仮面……。

ただし、誰もが知っている。「しずかちゃん」が語る言葉に、子ども達は親しみを持つであろう。年令が近いということ、自分たちの代表と思うかも知れない（実際の年令は不明だが）。彼女のファンなら、絵があるだけで社会科が好きになるかもしれない。

彼女の絵は、前もって定められた内容（知識、概念）を、学習者にソフトに伝える（気付けさせる）手段としては有効に機能するであろう。

同様のことは、本文の中の三人の子ども達の顔の絵についてもいえる。

「機械を使うようになって、佐藤さんの仕事やぐらしは、変わったのかし

ら。」／「ほかの農家からも田のせわをたのまれるというのは、どういうことなのかな。」／「農業だけでぐらしをたてていくには、どんな苦労があるのだろう。」

いずれもこの二ページで教師が教えたい内容を書くための「問い」。これを教師が授業で語れば、そのまま「発問」になるはず。「しずかちゃん」と同様に、ここに描かれた子ども達の顔もまた教師がかぶる仮面である。

だがそれでも子ども達の顔や「しずかちゃん」を用いたこと自体は評価すべきである。「教師の視点」からとはいえず、学習者の理解しやすさを配慮しての導入だからである。そしてこのことは、教科書を「学習者の視点」から進化させるには、より高度なマンガ表現の導入が不可欠であることを示唆していると考ええる。

これが、「教科書は今なおマンガを越えることはできない」と付記する第

一 理由である。

四 問題点を拡大させる可能性も
ところで、私は、先に「しずかちゃん」の絵が、「定められた内容（知識、概念）を、学習者にソフトに伝える（気付けさせる）手段としては有効に機能する」と記した。このようなマンガの用い方について、一応、学習者への配慮という点で評価すべき面があることは既に指摘した。

しかしそのことが、他方で、「学ぶ側」ではなく「教える側」という「読者」を重視して書かれた教科書の問題点を、より一層拡大する危険性があることも指摘しておかねばならない。

その理由の一つは、活字とマンガというメディアの特性の相違に起因するものである。すなわち、抽象化、一般化された概念や知識の伝達に優れた活字メディアの問題点が、具体的、個別的に事象を表現することに優れたマン

ガメディアの導入により、かえって増幅される可能性があるからである。とりわけ社会科という教科の教育と学習にとって、このことは、致命的な問題点にもなりうると思われる。

これが、教科書は「マンガを越えられない」とする第二番目の理由でもある。そしてこの点についても、先の理由と同様に具体的に教科書に即して論じたいが、それは今回の課題にせざるをえない。そこで、再び本誌の読者に協力（宿題？）をお願いしたい。

まず、「耕地の整備と機械化」と題する見開き二ページ全体の構成を確認してほしい。次に、全国の小学校で教師が五年生を教えるために使用する、という面でどのような工夫がなされているかを考えてほしい。さらに、この教科書を使った授業のシュミレーションを試みてほしい。そして、本連載を読み返してほしい。問題は自ずと明らかになるう（と思っているが……）。

教科書がマンガを越えるための条件 (その一)

なぜなせモテル
マンガ考現学

⑧



静岡大学助教授
馬居政幸

一 超えられない理由とは

これまで二回にわたり、東京書籍の小学校社会科教科書に登場した「しずかちゃん」にこだわって、マンガと教科書の関係を論じてきた。特に前回、マンガを導入したこと自体は高く評価した。これまで何度か指摘してきたように、マンガは今なお異端である。とりわけキョウイクカイカンケイシャという聖なる世界での評価は厳しい。その世界の聖典が教科書。この聖域にタケコプターが侵入したわけである。東京書籍の小学校社会科教科書編集部は、この聖域に敬意を表したい。

……が、それでも「教科書はマンガを超えていない」、これが私の結論であった。その理由は二つ。

一つは、教科書の中のマンガの役割が学習者の理解を「助ける」ことにあること（教師の「教えやすさ」）。教師の「視点」を基準としてはいるが。

このことは、教科書が更に進んで「学習者の視点」に基づき進化するためには、より高度な「マンガ表現の助け」が必要であることを示唆している。助ける方が助けてもらう方より優れているのは当然のこと。教科書はマンガを超えていないわけである。

もう一つの理由は教科書の使い方。「教師の視点」から導入されたマンガは、使い方を誤ると、日本の教科書の問題点をより一層拡大する危険性がある。とりわけ社会科という教科には致命的な問題点になる。

用いることで、かえって問題点を拡大する危険性があるとすれば、教科書はまだマンガを使いこなせていない、といえよう。使いこなせない相手に対して、超えたとはいえない。

ではどういう使い方が危険なのか。これを教科書に即して具体的に論ずるのが今回の課題、と前回予告した。それと関連して宿題も出した。そこで、今回も引き続き先々月号に縮小掲載した教科書を横に置いて載きたい。

二 教科書の紙面構成の特性

ところで使い方が問題ならそれを変えればいいはず。問題はマンガを超えて教科書を進化させる使い方。そこで

今回と今回のテーマは「教科書がマンガを超える条件」。このテーマを念頭において、誤った使い方である先の二つ目の理由を考えたい。そこで宿題の答え合わせ。四つ出したはず。

- ① 全体構成の確認
 - ② 全国の教師が教えるための工夫
 - ③ 授業のシミュレーション
 - ④ 本連載を読み返す
- まず①。「耕地の整備と機械化」という見開き二ページの全体構成。

「佐藤さんの農業の紹介」

「三人の子どもの問い」

「佐藤さんの話による答え」

「要約・結論十問題点の指摘」

これが本文の構成である。さらに欄外は次のようになる。

「のび太」も参加しての導入写真

本文の構成（「授業展開」）に応じた「発問」と「資料」の配列

「しずかちゃん」による学習総括

本文と欄外が有機的に運動して、授業展開と学習課題が自ずと浮かびあがってくる。非常に考えられた紙面構成である。日本の教科書編集の水準の高さを示すものと言えよう。

このことは宿題②を見ればより明確になる。ここでは二点あげたい。

第一は、本文を地方の具体的な事例で記述し、欄外に全国平均のデータを配置したこと。本文の内容は庄内平野の佐藤さんの稲作問題である。だがそれを使って教える教師は全国にいる。「個別的」な佐藤さんの問題を日本全体の教師の教育課題、すなわち「一般

的」な日本の農業問題にどのように転換するか。その手掛りが全国版のデータ。誰もが知る「のび太」と「しずかちゃん」を登場させたのも、その工夫の一環と考えることもできよう。

第二は、文章が書き言葉に近い標準語で書かれていること。これは前回にも指摘した。その際はマンガ的手法にもかかわらず佐藤さんや三人の子どもが方言でないことを否定的な文脈で提示した。この意味は次回に回し、まず肯定的な理由をあげておきたい。

三 標準語の効用

本文の「佐藤さんの話」は、明らかに庄内で稲を作る佐藤さんが話した言葉を記述したものではない。通常の会話で、このような論理的かつ漢字を多用した書き言葉に近い標準語を話すことはないはずだからである。なぜそういえるか。理由は二つある。

第一に、庄内地方に限らず、いずれ

1	2	3	4	5	6	7	8	9
---	---	---	---	---	---	---	---	---

わがフラスの知的冒険物語

時々の味と味の醍醐の追究



東京都大田区＝道塚小学校 野田芳朗

① 追究が生まれる時

水産業（五年・社会）の学習をしてきた時だ。

200カイリ漁業専管水域は何故設けられたか。「自国の水産資源の保護」が目的である。これによって、遠洋漁業の漁獲量は激減した。74年の頃だ。

「ちょうどオイルショックの時でもあったから、ダブルパンチになった」と発言する子もいた。200カイリ水域だけでなく、遠洋航海のための石油が不足し、高騰したことも、遠洋漁業に従事する人たちに打撃を与えたというのである。うーん、なるほど。ものごとを関連づけて考えるところはグッドだ。

さて、他国の200カイリ水域内で魚をとる時は、相手国に「入漁料」を払わなければならない。そこで、発問。

「入漁料」は何で決めるか？

農林水産省に聞けばわかる！

水産業に関する資料の出所が、「農林水産省」と書いてあるところから判断したのである。なかなかのものだ。

「誰か調べてきてくれるかな？」と私。インタビュの仕方も教えた。

はたして調べる子がいるか――。

いくつも予想が出た。

① 国によって。
② 船の大きさ（トン数）によって。
③ 漁獲量によって。
④ 魚の種類によって。

の地域にも固有の言葉があり、それが話し言葉を構成しているはずだからである。さらに、性や年齢や職業などの違いによっても言葉は異なるはず。

人の「話し言葉」の世界を支える規則（言語コード）は多様である。当然「話された言葉」も多様になる。

第二は、話し相手に応じて発話する言葉が話し言葉であること。

「書き言葉」の場合は言語の普遍的な規則である文法が正しさの基準。それゆえ論理性が問題になる。だが「話し言葉」の場合は、文法的正確さや論理的整合性よりも、対話の相手との関係や対話の場面、すなわち「シチュエーション」への配慮が優先される。

会話で「発話された言葉」をどれほど正確に「文字」で記述しても、シチュエーションを明示（これがマンガの世界、この点は次回に）していなければ文字の意味を会話の当事者しか理解できない、ということが生じるはず。

これでは全国の教師と子どもを読者にする教科書では使用できない。

逆に、標準語は文字通り全国共通の言葉として誰もが理解できることを目的に、また文字で書き表されることを前提として「作られた言語」。漢字は長い歴史の過程で、その中に一定のシチュエーションを包含してきた普遍性の高い「表意文字」（その起源は一種のマンガ、これも次回に）である。

これが、「佐藤さんの話」や、三人の子どもの達のカギカッコの中が、話し言葉であるにもかかわらず、全て標準語で、それも漢字を多用した書き言葉に近い文章表現になっている理由。北海道から沖縄まで全国どの小学校の先生も、この教科書を使用して授業が行えることになる理由でもある。

四 なぜマンガに助けを求めるのか

① 全国版の「データII活字」の配置

② 標準語による「文字II活字」表現

この二つが、個別的な佐藤さんの問題を、全国の小学校五年の社会科の授業に共通する普遍的な課題にするための「転換装置」ということになる。

しかし、以上のことをよく考えるとどこかおかしい。なぜあえて庄内平野の佐藤さんという個別的な世界に基づいて本文を記述するのか。普遍的な課題に転換しなければならぬのなら、最初から本文を全国データにより記述すればよいのではないか。

いいかえれば、なぜ教科書は「転換装置」を用意してまでも、話し言葉を装った表現を用いるのか。あるいは、なぜ教科書は「マンガ的表現形式」で「偽装」してまでも個別性を強調する紙面構成を必要とするのか。

実は、この疑問の中に、現在の日本の教科書がマンガを超えるられない理由とマンガを超える条件が潜んでいる。

ここから次回。答えのヒントは宿題

③④。再度、宿題への挑戦を！

「ハイ、時間です。赤（の筆記具）を出しなさい。正解であれば、○ まちがいであれば訂正しなさい。」と全員が赤を出すのを確認してから、「では、やります。」

と言って、じつと箱を見ます。

私の様子を見ている塾生は5秒を過ぎたあたりから、

「箱を見よう。（箱を見ている。）」

と言い始めます。

「ハイ、箱を見ました。一番の正解はこれです。」

「エエッ!」「ちがったあ。」

「私は箱を見ましたが正解です。」

こんな風にして

常に正解するとは限らない状況

をつくりだします。

全員（このときは全員が訂正しました）が訂正したのを確認して、二番をやります。

「次、二番です。」

と言って、ゆつくりと、じれったいくらいに（5秒以上かけて）（スローモーションフィルムを回す感じで）ゆつくりと、箱をあけます。

「ハイ、二番は私は箱をあけたが、正解です。」

「あー、また、ちがった。」

という声を尻目に、訂正が済むのを待ちます。

訂正が済んだのを確認して、素速くケーキを取り出し、パクつきます。一口パクついた後は、ゆつくりと食べながら、口を開けたままです。

塾生は

「あつ、食べ始めた。」

「本当に食べている。」

と驚いたり、恨めしく言っていますが、私が食べるのを途中でやめているのを見て、何事かという顔をします。

「ハイ、三番です。食べるのをやめました。私はやめた（又は私は食べるの

をやめた）が正解です。

これが進行形の学習になりますと、食べながら、「ハイ、私は今、ケーキを食べています。が正解です」といいま

す。現在形も同様です。

食べながら、うまそうに、

「あー、ウマイ。」

などと言いながら、

「私はケーキを食べるが正解です。」

と言います。

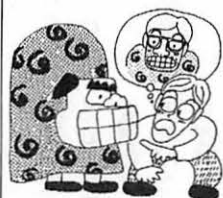
すると、常に正解するとは限らない状況ができましたので、教卓（代わり）の上には主のない食べ物が並んでいます。

「ジャンケンをして勝った人から好きなものを取りなさい。また、やろうね。」

と言って、塾生に今度こそ正解するぞという気にさせて、終わりにします。

教科書がマンガを越えるための条件（その1）

なぜなぜモテル マンガが考現学



静岡大学助教授
馬居政幸

一 三つの転換装置

「しずかちゃん」と「のびた」が初めて登場した東京書籍の小学校社会科教科書にこだわること三回。特に前回は、全国の小学校で使用されるはずの教科書に、なぜ、個性性を強調する劇画的な絵の顔とともに、庄内平野の佐藤さんの話が主発問の答えとして用いられているのか、にこだわった。

その結果、佐藤さん個人の問題を、小学校五年社会科に共通する普遍的な課題にするために、次の三つの「転換装置」があることを明らかにした。

- ① 全国版のデータⅡ活字の配置
- ② 標準語による文字Ⅱ活字表現
- ③ 全国版のマンガキャラクター

会ったこともない庄内平野の佐藤さんの話でも、誰もが知っている「しずかちゃん」が「機械化されて……問題もあるのね」と語りかければ、全国の五年生も「あ、そうか」と納得する、というわけである。

しかし、問題はここから。なぜ、「転換装置」を用意し、「マンガ的表現形式」で「偽装」してまでも、佐藤さんの話という個性性を強調

するのか。この疑問を解くことから、教科書がマンガを超える条件を明らかにするのがこれからの課題。そのヒントが次の二つの宿題である。

- ① 授業のシミュレーション
- ② 本連載を読み返す

この答え合わせを、次の私見を展開することから始めたい。それは「教師の視点」から導入されたマンガは、使い方を誤れば、「日本の教科書の問題点」をより拡大する、ということ。

そこで、改めて本誌十月号に紹介した教科書二頁と、十二月号で提示した教科書の全体構成を手元において、以下の拙論をお読みいただきたい。

二 閉ざされた世界からの解放を

ところで、先に断っておきたいが、以下述べることは、東京書籍の教科書の問題、ということではない。日本の教科書全体に共通する問題である。前回指摘したように、最も優れた社会科

の教科書の一つがこの東京書籍の教科書、というのが私の評価。非常に優れているがゆえにその問題もまた明確に現れる、と理解していただきたい。

では、日本の教科書全体に共通する問題とは何か。二つある。

一つは、「本文」の論理構成が「閉じた構造」であること。

たとえば、三人の子どもの問いと佐藤さんの答えは「対一（一元的）」の関係。「開いた文脈」すなわち記述されたこと以外に問いや答えがあることを示唆する表現になっていない。

さらに、佐藤さんは「機械化のために、費用がふえるのがなやみです」と語り、本文末尾で「新しいなやみも生まれています」と結論づけ、それを「しずかちゃん」が確認する。

ここで宿題①。実際の授業をシュミレートしてほしい。

「先生、使った費用や代金は返すのが当然でしょ」、なぜ新しいなやみにな

るの？」という問いを持つ子どもはいないだろうか。

二つは、「転換装置」であるマンガや図表の役割。本文が指し示す事象の具体化・多元化ではなく、閉鎖性を強化するために用いられていること。

たとえば「しずかちゃん」は「機械化で楽になった」という。この結論を導くヒントは二つ。一つは本文の「佐藤さんの話」。「朝4時：日がくれるまで」と労働時間の問題が提起されている。二つは転換装置の「作業別労働時間の変化」のグラフ。一七四時間から四八時間に激減している。

ただし、グラフが示すのは日本全体の平均値。佐藤さんではない。そのため、転換装置が機能するためには、全国の稲作の作業手順と大変さは全て同じ、という前提が必要になる。

だが本当にそうだろうか。少なくとも私は肯定できない。初めての東北旅行で、広大な稲穂の絨毯を前にして感

じた興奮と困惑を忘れられないからである。そこは、四国の田圃の中で育った者には全く異質な世界であった。

さらに、仮に同じとしても、グラフにある作業を、その大変さという意味で、具体的に知る小学五年生は全国でどれほどいるか。時間の減少を「機械化されて……楽になった」と結論付け「しずかちゃん」の評価（社会認識？）の可否は、機械化以前の農業経験者しか判断できないのではないか。

そこで授業のシュミレーション。経験のない子ども達が、このグラフを読み、次のような質問をしてきた時に、先生はどう答えるか。

「機械を使わなくても一年で一七四時間なんて……。なぜ大変なの。それに今は四八時間でしょ。なぜ悩むのかな。私のお父さんは日曜も会社に行くのに……」

少なくとも、本文とその転換装置が指し示す社会的事実の認識（これが社

会科教育の目的）に基づく限り、この

ような社会認識が生じてでも不思議ではないと思うがいかがか。

だが、「しずかちゃん」の笑顔は、このような疑問を覆い隠して、全国の子ども達に同意を強制しないか！

三 マンガを超える条件

ここで宿題②。改めて本連載を読み返してほしい。私はマンガを作者ではなく読者の日常から離れられないメディアと位置づけた。だから子どもの変化に応じてマンガは「進化」できた。

教科書はどうか。やはり進化した。ただし、それを要求する読者は教師であって子どもではない。教師が、「農業の機械化」→「楽になる」問題もある」という「社会認識Ⅱ知識」を、全国の

小学五年生に、等しくかつ容易に「教える」ことができるための進化。これが、「しずかちゃん」という転換装置を用意してまでも、マンガ的偽装によ

る個性性を強調する理由と考える。

だが、このような社会認識の教育は社会科本来の目的なのであるか。

全国の子どもとその生活舞台は多種多様であるはず。その多様性にかかわらずなく、教科書にある「一元的な社会認識Ⅱ知識」の「結果」を全国共通に教えることが、社会科の目的なのか。

個々の子どもの生活にこだわって、多様な「社会的事実と価値評価」の中を模索し（はいまわり？）ながら認識を導き出す「過程」なのか。

私の立場は後者。一元的な社会認識を全国共通に教える時代は終わったと考えるからである。理由は二つ。

その一つは、高度に産業化と情報化が進んだ社会的な世界に育つ子どもの現実。いかに教科書が一元的な社会認識を提示しても、認識の多元化は免れないからである。もしそれでも強制するならば、学校の評価のために記憶するだけ。テストには合理的でも、子ど

も自身の社会的な世界に「生きてはたらく知識（知恵？）」とはならない。

機械化された稲作の大変さは、子ども「生きる場Ⅱ社会」との関わりで理解されてこそ、子どもが実際に使える知識（知恵）になるはず。

専業農家と第一種兼業農家と第二種兼業農家では、大変さは異なるはず。雪に閉ざされる東北の稲作と、一年中耕作可能な四国の稲作を同一には論じられない。まして、都市に住む子どもにとっての稲作の大変さとは何か。

この問いへの挑戦こそ社会科の課題ではないか。ただし、それは全国版の教科書ではなく、日々創造される「授業と教師」の課題。そしてここに教科書マンガを超えるヒントがある。

この詳細と、理由その二を述べることから次回を始めたい。その内容は、生活科が提起する新指導要録の「新しい学力観」と「マンガリテラシー」との「相関関係」へと進むであろう。

しい体験学習を経験することも可能である。

自分のための勉強、そして進路の決定とややもすれば自己中心的になり易い時期、ラスト1週間の取り組みの中に他者への奉仕を取り入れる事は意義深いと考える。

(3) 卒業式に向けて

卒業式は特別活動の中の学校行事の儀式的行事に当たる。義務教育の締めくくりに当たり、未来に向かっての出発点になるような厳肅な式が望ましい。近ごろは式の中に生徒合唱を取り入れ、非常に感動深い式を行っている学校も多い。

こうしたいわば、形式化した儀式の中にいかに生徒の主體的な活動を組み入れていくかを述べたい。

・どんな卒業式にしたいかを考えさせる
自分達の卒業式をどのような式にしたいかを学級の実行委員がまとめる。

たとえば決まりきった次第で進む式で

あつても式を「自分達のもの」にするためには必要である。厳肅な式、感動的な式、まじめな式等、生徒が求めている式と教師側が意図しているものとの差はないものである。しかしここで生徒に目標と主体者が生徒自身にある事を意識させる事は意義深い。

・実行委員の役割を明確にする

形式化された儀式の中でいかに生徒の主体性を出していくかは、式の目的を生徒に十分理解させ、教師が目指すものと生徒が目指すものとを一致させることである。そうした上で、実行委員から学年全体に卒業式の全体像をおろし理解させる。

次に卒業式の全体像をおろし理解させる。次に卒業式の担当者（一般には教務主任）と式の流れと練習の段階で実行委員として何ができるかの打ち合わせを行う。

・練習中での実行委員の役割

式の当日は実行委員としての大きな

役はない。実行委員は主に練習の中が活躍場所となる。例をあげると卒業証書授与の練習では、呼名の教師役、証書授与の校長先生役、証書授与の受け方、歩き方、礼の仕方など式の練習はほとんど実行委員による活動が可能である。自分たちの卒業式という意識が十分に浸透していれば、練習にもかなり熱が入る。いままでリーダーとして活躍した事のない者も周囲の協力により、自信を持って取り組んだ例もある。

以上、生徒を主体にしたラスト1週間の取り組みを述べた。中学3年間の最後を飾るにふさわしい充実した、思い出深い活動ができればと願いつつも生徒の気が緩み、白けたラストになったしまった事もある。3年間培ってきた生徒の主體的活動の総決算として、みんなの力で1週間を設計し、実行していく計画は非常に有意義であると考えている。

マンガと社会認識の多元性

なぜなぜモテル

マンガ考現学

⑩



静岡大学助教授
馬居政幸

一 マンガを取り入れてはみたが「社会科」の教科書がマンガを超える条件とは何か。この問いを解くための伏線として、前回、教科書の二つの特性を次のように指摘した。

①閉じた構造と本文の問いと答えの関係が一对一（一元的）

②マンガや図表の役割と本文の具体化・多元化ではなく、抽象化・一元化への転換装置

次いで、このような教科書におけるマンガの使い方は、日本の教科書の問題点を拡大するだけで、現代社会に育つ子どもの社会認識を豊かにする

方向には機能しない危険性があることを指摘した。そしてその理由として、現代の子どもが生きる世界が、高度に産業化と情報化が進んだ社会であることを強調した。いかに教科書が一元的な社会認識を提示しても、認識の多元化は免れないからである。

そこで今回は、これを受けて、理由その二を述べることから始めたい。

それは、これから子どもが生きてゆかねばならない社会的世界に必要なものは、多様な社会認識と自分なりの社会認識との間のコンセンサスを、変化する状況に応じて創造し続ける能力、と

いうことである。

誰にとつても正しいとされる社会認識を「教える」こと（これが一元的という意味）ではなく、様々な正しさが共に生きていることができる認識を「育てる」こと。これがこれからの社会認識の教育の課題でなければならない。

未来社会は、一元的な社会認識で乗り切れるような甘い世界ではない。これが私の考えである。全国共通に一定の知識・認識を教えておけばよい時代は終わったのである。

たとえば、前回紹介したように、機械化された稲作の大変さの程度や内容は、地域によって異なるはず。何よりも、現在は、米自由化を迫られ、稲作の存在自体が問われる時代である。稲作の困難さの理由は、極めて多元かつ流動的にならざるをえないはず。

一方で刻々と変化する社会状況との関連を見失わずに、他方で身近な自分が生活する地域の稲作との関わりで理

解する、という手順をふむことなく、教科書に記載された知識・認識を、自分自身の社会認識・智恵にすることができないと考える。

二 マンガを超えるポイント

社会認識の多元化は、単に理念の問題ではなく、現代日本で生きる者が正面から対峙しなければならない、社会的現実の問題である。

そして、多元的な社会認識を伝えることに優れたメディアこそマンガである、というのが私のマンガ観。だが、教科書の中の「しずかちゃん」の役割は逆であった。

とすれば、教科書は間違っているのか。否である。現在の教育システムを前提にする限り教科書はこのようなならざるをえないからである。

教科書は教えるべき内容を貯蔵した書物。子どもは教えられるべき存在。教師は教える存在。教える内容の基本

から商品コストまで事前に決定済み。このような条件のもとで教科書は、編集・執筆されるのである。

その結果、「しずかちゃん」も教師の意図を伝える代理人にならざるをえない。「ドラえもん」と一緒に自由に活躍できないのである。

もしこのことを自覚せずに、教師と子どもが、「しずかちゃん」を学習者の代表と錯覚するとき、その社会科の授業は最悪のパターンをとることになる。問題は授業のあり方であり、教師の教科書の使い方となる。

教科書は、元来、多様な現実を一定の基準で抜き取り、抽象化し、概念化した世界を、文字・活字という表現で伝えようとするメディアである。

授業は、この過程を逆に迎えるものでなければならぬ。特に、社会科のように、実際に子どもが生活する世界を対象とする教科にとつて、この作業は不可欠である。

教科書では、庄内平野の稲作の問題を、日本の稲作農業の問題に普遍化する装置が、写真、グラフ、そしてマンガであった。それを、逆に、この教科書で子どもたちの日常に具体化するための転換装置として読み変えることができるかどうか。これが、教科書がマンガを超えるポイントである。

三 再転換装置

本来、マンガは抽象的な概念を、一定の社会的文脈の中に個別化、具体化する機能に優れたメディアである。

その意味で、教科書の中の「しずかちゃん」の役割は、教室の授業という社会的文脈の中で、この教科書で教わる小学校五年生が何を記憶すればよいかを具体化したものとも解釈できる。

教師の仮面とする理由である。しかし、この仮面であることを、逆手にとるとどうなるか。

すなわち、「しずかちゃん」を教師

の仮面、あるいは教師の期待にそう優等生の仮面ではなく、どこにでもいる仲間の仮面として子どもたちがとらえることができるかどうか。彼女の言葉を、模範回答ではなく、さまざまな答えの一つとして、位置づけることができるかどうか。

「しずかちゃん」はこう考えるけど、みんなの場合はどうだ？」

教師の仮面をとつて、「しずかちゃん」自身にかえらせるのである。そして、このような読替えこそ、マンガメディア本来の姿であるはず。

マンガのキャラクターは、読者の化身にも、仲間の化身にもなる。多元的な視点の移動が自由なメディア。表現された世界を読者が自由に距離を取り転換させて読み取ることが容易なメディア。これがマンガである。

なぜこのようなことが可能になるのか。理由は二つある。一つは、「絵＋文字＋コマ」により描かれた世界であ

ること。二つは、これまで何度もふれてきたように、読者の日常生活から離れられないメディアだからである。

四 マンガと「新しい学力観」

マンガのコマは時間と空間を自在につくり出す装置である。コマで仕切られたマンガの絵は、人が生きる世界である。吹き出しの中の言葉はその生きた人の営みの過程で発せられる。

マンガは、まず絵とコマ割りによる表現がある。それを補うのが言葉。逆ではない。まず世界があり、人の生活があり、そこに言葉が生まれる。

高度な論理やメッセージを表現するためにも、あくまで、人間の日常生活の中に還元しなければならない。これがマンガ固有の表現方法である。

マンガの顔が並んで、難解な知識を語ったとしても、マンガではない。語る言葉が、語る人の行動や生活の状況の必然として表現された時に、読者は

論理を自然なものとして受けとる。これがマンガの世界である。

そして、このような世界こそ、私は学習指導要領・要録が求める「新しい学力観」の展開する世界と考える。

次回、すなわち最終回はここから。そのための準備として、次の会話の主が誰かをあててほしい。読者の身近にいる子どもたちにも質問してほしい。

- ①「じゃあ つぎに 闘うヤツを
オラが指名してもいいか？」

②「きさま ほんとうに 降参す
るか……！」

「ど……どういふつもりだ あ
いつは……！」

③「か…… 勝てるヤツなどおら
んぞ……!!」

ヒントは、少年ジャンプ一九九三年
第1号に掲載されたドラゴンボール。
最終回はこのマンガとともに！

発想の技能を高める原則は、ズバリ、
原則一 発想の豊かな子から盗む

ということである。発想の豊かな子は、いろいろ思いついたことの中から取捨選択をしている。なかなか考えの浮か

発想する技能をつける 「多様な指導」のアイデア

東京都田無市
柳沢小学校
斎藤郁央

ばない子は、とにかくマネをしてでも、いろいろな考え方を知る必要がある。

この場合、他人を参考にせざるを得ない状態を作らないと意味がない。

例えば「好きな絵を描きなさい」と指導した場合、できあがった作品には子どもたち一人ひとりの多様な考えが表れるが、「好き」という概念はそれ

ぞれ違うので、せっかくの多様な考えがクラスに波及することは少ない。

しかし、同じ自由に描かせるのでも、予め紙に一本の線を引いておき、「必ずこの線を使って絵を描きなさい」と指導すれば、この一本の線が存在を通して、他者の考えとの接点が生まれる。

なかなか描けずに苦勞している子にとっては「なるほど、あんな使い方もあるのか」と気付く場となり、発想の技能が「高まる」ことになる。つまり、

全員に共通する設定を作る

ということが重要である。

「し」のつく言葉を集め、それらを作るべくたくさん使う文を考えさせると「シンデレラが新宿の小学校でしりとりをして……」といったような発想豊かな文が数多く生まれる。この授業を支えているのは「し」というたった一文字であるが、この共通の土台が、子

どもたちの思考に方向性を持たせる大きな手助けとなっているのである。

しかし、この原則だけでは、もともと発想の豊かな子まで鍛えることはできない。そこで、

原則二 常識を破る場を提示する

ということが、あわせて必要になる。

生活科で、空き教室に体が埋まるほどの落ち葉を集めておき、その利用法を考えさせる実践がある。この場合、「宝探ししたい」「布団にして昼寝したい」「トンネルを作つてくぐりたい」等の様々な意見が出るが、日常では体験できない場を提供されたことが子どもたちの自由な発想を引き出している。最後に、もう一つ大切なことは、

原則三 教師が発想豊かなこと

なのだが、これが一番の難関であろう。

マンガリテラシーと新しい学力観

なぜなぜモテル
マンガが考現学



静岡大学助教授
馬居政幸

一 悟空、セル、ベジータ

マンガの世界こそ、「新しい学力観」の展開する世界

この理由を語ることが最終回の課題と予告し前回は終えた。そのための準備として、次の会話の主を調べることを、子どもたちに質問することとあわせて読者の皆さんにお願いした。

- ①「じゃあ つぎに 闘うヤツをオラが指名してもいいか？」
- ②「きさま ほんとうに 降参す

る気か……!!」

「ど……どういうつもりだ あ

いつは……!!」

- ③「か……勝てるヤツなどおらんぞ……!!」

答えは、①悟空、②がセル、③がベジータ。『少年ジャンプ』一九九三年第一号に掲載された「ドラゴンボール」の最後のシーンの言葉である。

読者の中で直ちに答えがわかった方はどれくらいおられたか。小学校三年生の私の次男が要した時間はわずか数秒。多分、読者が聞かれた子どもたち

の多くも同様ではないか。

その理由を次男に聞いてみた。

「だって、オラは悟空の言い方だから。そしたら、ドラゴンボールってわかるし。あとは、なんとなく言い方がそうだから……。」(なんとなくってどういうこと、との私の質問に)

「えーと……、ベジータはオレが一番って感じていつも話すから。セルは遊び半分の言い方だし……。」

二 読者のマンガリテラシー度?

私の次男にとってドラゴンボールの三人のキャラクターは、それぞれ固有の言葉を表現する存在。固有の表現とは個性的ということ。だから言葉のみで、その主がわかるのである。

これは子どもにも人気のあるマンガ全てに当てはまる特性である。もし手元に少年ジャンプがあれば開いて、掲載マンガを相互に比較してほしい。少し落ちてきているものの一番人気

は「ドラゴンボール」。それを「スラムダンク」と「ダイの大冒険」が追う。「遊白書」も人気が上がってきている。

これらのキャラクターを、子どもたちはその話す言葉のみで区分するであろう。理由は次男が指摘したように、各マンガのキャラクターは非常に個性的、すなわち言葉の表現方法が異なるからである。加えて、言葉を語る顔の表情から活躍する世界にいたるまで全て異なるからである。正確にいえば、顔の描き方から場面展開まで、各マンガの差異を集約するのがキャラクターの話す言葉であり、その差を子どもが瞬時に判断する、ということである。

ただし、本誌の読者が子どもたちと同様にキャラクターの差異に気付き、言葉のみで区別できるかどうかは別の問題である。この能力自体がマンガリテラシー、すなわち、マンガを読み取る能力の一つだからである。

そこで、読者のマンガリテラシー習

浮かび上がってくるはず。

独自の表現ではあっても、子どもの日常の言葉から遊離しない。多様性を保ちつつも、あくまで子どもが生活の中で用いる言葉の範囲内での個別（差異）化。これがマンガ（特に少年ジャンプ）のキャラクターの言葉である。

舞台となる世界も同様。多様な世界で展開されるストーリーのシチュエーションの構造、あるいは価値観や行動パターンは、かなり類型的である。

マンガの舞台はフィクションだが、そこで生きるキャラクターのリアリティは読者のリアリティと結びつく。ジャンプが描くキャラクターに人格円満なスーパーマンはいないはず。自分の能力に恐れ悩む悟空。自己の無力さを虚勢で隠すベジータ。滅びを予感させるセルの自信。だれもが日常持ちうるキャラクターである。

一方で、日常の現実には存在しない多種多様な世界と個性。他方で、強烈

熟度を計るために、次の①～④の順にジャンプのマンガを見比べてほしい。

- ①マンガのキャラクターの描き方や話し方の相違と類似点。
- ②キャラクターが活躍する舞台や背景の描き方の相違と類似点。
- ③ストーリーの相違と類似点。
- ④コマ割りの相違と類似点。

三 個性とリアリティ

まずキャラクター。顔の表情ひとつをとっても、場面に応じて細かく描きわけていることが理解できよう。話し方の変化も読み取れるはず。

次に舞台や背景。これも、体育館のロッカールームから異次元の格闘技場まで、まさに多種多様。当然、ストーリー展開も大きく異なる。

このような違いをいかに早く（瞬時に）理解できるかが、マンガリテラシー習熟の第一段階である。

第二段階はコマ割りの機能の理解。

な個性を持ちつつもどこかで読者の日常のリアリティと重なるキャラクターとシチュエーション。この二つのパラメータがマンガの人気の秘密である。どれがリアルで、どれが想像と創造の世界かを瞬時に判断する力。これがマンガリテラシーの第四段階。そして最も重要な能力である。

四 授業リテラシーを

このマンガリテラシー習熟の四段階を、読者の授業の世界における子ども

の姿を見る目と比較してほしい。個々の子ども

の個性。それを表現する場。相互に共有するリアリティ。それらを瞬時に判断する教師の目。確かにマンガの世界は非現実的、キャラクターの個性も誇張されたものである。だが、その世界にしか子どもが自分の個性の表現を見出せないとしたら、問題はどこにあるのか。

学習指導要領や要録が指摘する新し

マンガのコマは時間と空間を多元的に変化させる装置である。たとえば、冒頭の三人の言葉が表現されるコマは三つ。まず悟空が語り、それにセルとベジータが同時に答える。時間は数秒。場面は三つ。これらを瞬時に読み（聞き？）わけられるかどうか。

コマの枠一つで、数万年前から現在に瞬時に移動する場面もある。異次元の世界が枠を挟んで並立し、枠を破ってキャラクターが叫ぶ場面もある。このようなコマの意味を瞬時に理解できることがマンガリテラシー習熟の第二段階。そしてここまでが相違点、個性変化を把握するリテラシーである。

次の第三段階は類似性の把握。マンガの世界が有する読者（子ども）のリアリティ（現実）感の把握である。

改めて、キャラクターの言葉や行動様式、あるいはストーリー展開に注目してほしい。描かれた世界の多様性の背後に、子どもの日常性との連続性が

い学力観育成のポイントは、子供一人ひとりの個性を重視し、その豊かな表現をいかに保障するか、ということにあると理解する。問題は子供ではなく教師と授業のあり方にあるはず。

教室に並んで座った子ども一人ひとりの世界にも、多面的に時間と空間をわける目に見えないコマがないだろうか。これが、私がマンガに新学力観の世界を見出した理由である。

最後に、このような観点からの授業のあり方を提示した優れた書として、北俊夫氏の『イラストを取り入れた社会科授業』（社会科教育全書31 明治図書）を紹介しておきたい。また、少年ジャンプが描いてきた子どものリアリティの構造とその世界各国への広がりについては、明治図書より近日発刊される予定のオビニオン叢書の一冊に収められる拙著『少年ジャンプの世界と子どものリアリティ』で展開することとを予告して連載を終わりたい。



②今日は友だちのお田さんが先生です



④みんなで作ったおでんのできあがり！



授業研究 1992年4月号 / No.002

特集 パワーの出る教室環境づくり36例

◆子どもの作品の教室掲示・やつてはいけない三カ条

等々力寿・酒井臣吾・霜田一敏・小林毅夫・明石要一・三上周治…五

盗み撮り／評判の教室で発見したもの

—この教室環境のここをとり入れよう—

有田学級の教室環境から学ぶもの

田中力二

向山学級の教室環境から学ぶもの

板倉弘幸二五

幼稚園の教室環境から学ぶもの

金川秀人二九

●教室環境の工夫でパワーアップノ

机の配置・パワーアップの工夫点

柏木英樹…三

黒板の周りの掲示・パワーアップの工夫点

大木 馨…七

窓辺の利用法・パワーアップの工夫点

本間 明…三

子どもの机の中とイス周り・パワーアップの工夫点

善能寺正美…五

カベ面、背面の利用法・パワーアップの工夫点

黒崎宏一…五

廊下の活用・パワーアップの工夫点

大野木一雄…四

●教室環境・特別な日の楽しい発想

教室開きの飾りつけ・こんなのカガ

高学年 俵原正仁…五

低学年 真木千恵子…四

高学年 如田安生…五

イベント時の飾りつけ・こんなのカガ

高学年 平山 仁…三

低学年 田中裕美…五

高学年 丸尾浩一…五

記念日の飾りつけ・こんなのカガ

高学年 樋口正和…七

低学年 土井みどり…五 中学年 河村則彦…六 高学年 樋口正和…七

■授業のパワーアップに役立つモノ情報

生活科のパワーアップに役立つモノ情報

高山佳己…四

国語科のパワーアップに役立つモノ情報

横田経一郎…六

社会科のパワーアップに役立つモノ情報

菊池靖志…八

算数科のパワーアップに役立つモノ情報

堀田 実…七

理科のパワーアップに役立つモノ情報

那賀島彰一…六

体育科のパワーアップに役立つモノ情報

下山真一…三

音楽科のパワーアップに役立つモノ情報

須田 尚…六

図工科のパワーアップに役立つモノ情報

坂井邦晃…九

家庭科のパワーアップに役立つモノ情報

大前宣徳…三

■学級文庫活用率アップのブックリスト

低学年が好むブックリスト

林 訓子…二五

中学年を読書好きにするブックリスト

石井俊樹…二七

高学年の読書量アップのブックリスト

大河内義雄…二九

連載講座

なぜなぜモデルマンガ考現学生生活科とマンガのシンクロナイズ 馬居政幸…二二
わがクラスの知的冒険物語 知的冒険の入口はいつてもどこにもある 小山弘一…二四
往復書簡によるリレー討論 甲本卓司…三〇
問題提起「一番よい授業研究の方法とは」 向山洋一…三六
ホントにこれでもいいのかなウツツきの作り方 関口芳弘…三六

研究会案内

休育授業の腕が上がる一日講座(高)／岩手大学教育学部附属小学校(高)／信州大学教育学部附属松本中学校(高)

*表紙写真・モントル

*扉・朝からユーモア・ザ・ことば遊び*鈴木清隆

*表2…授業に使える1枚の自作写真*津川 裕

*表3・4…松画指導の技術*前田康裕

日次…授業「だいこんパーティーをしよう」写真(千葉県夷隅郡御宿町御宿小学校)大屋雅由

特集 「パッと反応する学級」つくりを鍛える

◆「パッと反応する学級」へ…新学期出発点の心得10ヶ条

有田和正・横山駿也・東郷健一郎…五

誌上演習

あなたの「子ども診断力」はどのランク
「この表情」から子どもの内面をどう読むか

内村博幸・山中伸之・松島正弘・秋山欣彦・大森 修…二

■反応がにぶい時、効き目のある教師のパフォーマンス

低学年に効き目のあるパフォーマンス…横田 健…七

中学年に効き目のあるパフォーマンス…俵原正仁…三

高学年に効き目のあるパフォーマンス…入江悟司…三

中学校に効き目のあるパフォーマンス…井上好文…六

■反応がにぶい時、授業の作戦をどう変えるか

国語・反応がにぶい時授業をどう変えるか…野口芳宏…元

社会・反応がにぶい時授業をどう変えるか…渡部栄二…三

算数・反応がにぶい時授業をどう変えるか…池野正晴…六

理科・反応がにぶい時授業をどう変えるか…須藤芳文…四

■反応がにぶい時、私が使う「とっておきの技」

低学年で反応がにぶい時「役に立つ技」…大塚 博・永島俊之・藤巻哲男・加藤辰雄…四

中学年で反応がにぶい時「役に立つ技」…斎藤欣哉・藤川信利・工藤活人・小林信次…四

高学年で反応がにぶい時「役に立つ技」…椿原正和・小泉 博・竹川訓申・星野裕一…三

中学校で反応がにぶい時「役に立つ技」…川嶋 岳・笠井正信・平井和雄・中村文義…七

■学級の反応にひびく「こんな子」にどうアタックするか

悪ふざけをする子へのアタック法…小池哲也…七

授業をバカにする子へのアタック法…坂本泰造…八

カゲでボスになっている子へのアタック法…中前雄一郎…八

引っこみ思案で黙っている子へのアタック法…竹田幸正…七

「子どもの反応」測定器・機械はどこまで読みとれる？…本間明信…六

●実物資料・反応がにぶい補教学級で役立つネタ

低学年学級の補教で役立つネタ…村上浩一・石井明子・池田 操…四

中学年学級の補教で役立つネタ…二浦一富・三代俊也・大田公蔵…二〇

高学年学級の補教で役立つネタ…稲葉章司・阪部 保・小林幸雄…二六

なぜなぜモテルマンガ考現学 生活科とマンガのシンクロナイズ 馬居政幸…二三

わがクラスの知的冒険物語 知的冒険は何でもこたわってみることから 小山弘一…二五

問題提起…一番よい授業研究の方法とは 富山一美…二三

往復書簡によるリレー討論 大森 修…二三

ホントにこれでいいのかな 多動症について―病気と差別― 関口芳弘…二六

連載講座

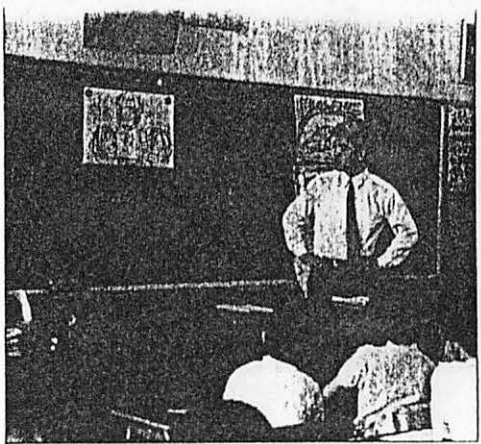
研究会案内

富山大学教育学部附属小学校・香川大学教育学部附属坂出小学校(五五)／新潟大学教育学部附属新潟小学校(五五)／山口大学教育学部附属光中学校(五五)／金沢大学教育学部附属小学校(五五)

*表紙写真・モントレ *扉・朝からユーモア・ザ・ことは遊び*鈴木潤隆

*表2…授業に使える1枚の自作写真*田中博樹

*表3・4…絵画指導の技術*前田康裕



特集 自学力がつく夏休みの「宿題リスト」

◆自学力がつく夏休み計画——今なら間に合う打つ手

佐藤幸司・櫻井 昭・山口 猛・橋本幸康・山田知津枝・赤石賢司

いつもの夏休み、ひと味ちがう「宿題リスト」

夏休み日記・ひと味工夫の指導例

北川三吾

ドリル・ひと味工夫の指導例

黒崎政弘

読書・ひと味工夫の指導例

加藤博一

自由研究・ひと味工夫の指導例

尾崎文雄

体験学習・ひと味工夫の指導例

松浦幸義

ウオッチング・ひと味工夫の指導例

山本 稔

体力づくり・ひと味工夫の指導例

佐藤真健

レジャー・ひと味工夫の指導例

入江悟司

自学力を刺激する「宿題リスト」

小学1年・自学力刺激の夏休み宿題

安富 篤

小学2年・自学力刺激の夏休み宿題

高柳 修

小学3年・自学力刺激の夏休み宿題

山之口正和

小学4年・自学力刺激の夏休み宿題

千村 学

小学5年・自学力刺激の夏休み宿題

桜木泰自

小学6年・自学力刺激の夏休み宿題

池岡正康

中学校・自学力刺激の夏休み宿題

黒澤敏行

「宿題リスト」の活用

中村文義

マンガで鍛える私の宿題工夫例

岡田健治

クイズで鍛える私の宿題工夫例

金川秀人

バスルで鍛える私の宿題工夫例

依原正仁

マンガで鍛える私の宿題工夫例

秦 安彦

ユニーク宿題の人気メニュー例

中原英雄

ドラマのある宿題・メニュー例

坂井邦晃

思い出に残る宿題・メニュー例

福田有児

難問苦闘の宿題・メニュー例

鈴木智光

根気で勝負の宿題・メニュー例

中道充義

保護者を巻きこむ宿題・メニュー例

山本昌猷

落とし穴のある宿題・メニュー例

松原則彦

夏でない出来ない宿題・メニュー例

志鷹佐吉

2学期 良いスタートを切るために

馬居政幸

なぜなぜモデルマンガ考現学

小山弘一

わがクラスの知的冒険物語

押方彰一

問題提起…一番よい授業研究の方法とは

根本正雄

ホントにこれでいいのかな

関口芳弘

往復書簡によるリレー討論

馬居政幸

研究案内

小田原三郎

広島大附属三原中二校／北海道小学校教育研究会

湯沢早苗

1ラム六〇〇／全国小学校教育研究会

山田知津枝

*表紙写真…モントレ

*朝からユモア・サ・ことは遊び*鈴木清隆

表2…授業に使える1枚の自作写真

*表3・4…絵画指導の技術*前田康裕

*本文カット*伊藤泉

日次…授業写真(愛媛県上井町)関川小学校(鈴木智光)

*表紙写真…モントレ

*朝からユモア・サ・ことは遊び*鈴木清隆

表2…授業に使える1枚の自作写真

*表3・4…絵画指導の技術*前田康裕

*本文カット*伊藤泉

日次…授業写真(愛媛県上井町)関川小学校(鈴木智光)



特集 「わかる説明」はどことが違うか

◆授業における「説明」の役割を考える

岡坂慎二・落合幸子・北 俊夫・谷川彰英・岩下 修

説明は話し手と聞き手の共同作業
相手の立場に立つてとらえ返す配慮
具体化と体系化の両方向に結びつける
基本的条件と適切な事例の選択

「わかる説明」はどことが違うか

●1年生が「わかる説明」はどことがポイント

国語「わかる説明」はどことが違う

生活科「わかる説明」はどことが違う

算数「わかる説明」はどことが違う

体育「わかる説明」はどことが違う

●2年生が「わかる説明」はどことがポイント

国語「わかる説明」はどことが違う

生活科「わかる説明」はどことが違う

算数「わかる説明」はどことが違う

体育「わかる説明」はどことが違う

●3年生が「わかる説明」はどことがポイント

国語「わかる説明」はどことが違う

社会「わかる説明」はどことが違う

算数「わかる説明」はどことが違う

理科「わかる説明」はどことが違う

●4年生が「わかる説明」はどことがポイント

国語「わかる説明」はどことが違う

社会「わかる説明」はどことが違う

算数「わかる説明」はどことが違う

理科「わかる説明」はどことが違う

体育「わかる説明」はどことが違う

●5年生が「わかる説明」はどことがポイント

国語「わかる説明」はどことが違う

社会「わかる説明」はどことが違う

算数「わかる説明」はどことが違う

理科「わかる説明」はどことが違う

●6年生が「わかる説明」はどことがポイント

国語「わかる説明」はどことが違う

社会「わかる説明」はどことが違う

算数「わかる説明」はどことが違う

理科「わかる説明」はどことが違う

●中学生が「わかる説明」はどことがポイント

国語「わかる説明」はどことが違う

社会「わかる説明」はどことが違う

理科「わかる説明」はどことが違う

英語「わかる説明」はどことが違う

「この説明」はどことが違うか

教科書の「この説明」はどことが違うか
テスト問題の「この説明」はどことが違うか
授業の「この説明」はどことが違うか

連載講座

なぜなぜモデル「マンガ考現学」マンガと活字どちが優れたメディアか 馬居政幸 二〇
わがクラスの知的冒険物語 教師自ら知的冒険者をめざして 野田芳朗 二三
往復書簡による問題提起…一番よい授業研究の方法とは 往信 小林篤史 二九
リレー 討論 返信 岩下 修 二九
ホントにこれでいいのかな? 「慣習法としてのしつけ」のつづきと 関口芳弘 二五
「子どもと入道」

研究会案内

神戸大附属住吉中(五)／静大附属浜松中(五)／新潟県川西町下小(九)

*表紙写真・モニター *屏・朝からユ一モア・ザ・ことは遊び*鈴木潤隆
*表2・授業に使える1枚の自作写真*古川光弘 *表3・4・松田指導の技術*前田康裕
*本文カット*伊藤泉 *目次・授業写真*(群馬県高崎市(東附小)神田純一

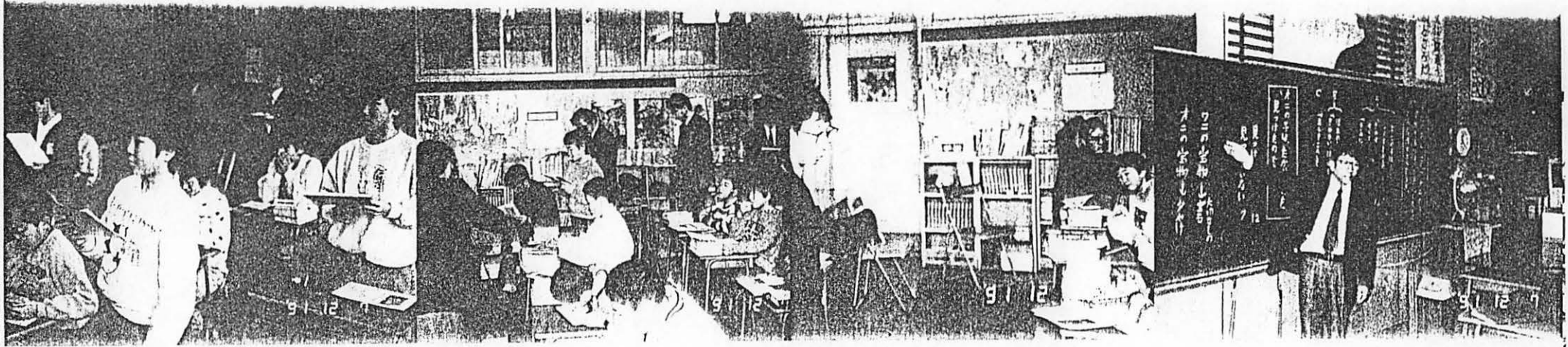


係決め、一人一役、立候補じゃんけん。

くじびきで席変え、机を動かす所。

30秒冬休み報告、メモを見ないで。

学期始め二日目の教室、集合写真。



授業研究 1992年9月号 No.3888

特集 信頼が育む参観授業のやり方

激突シンボ 参観授業のやり方で教師への信頼度は決まる?

提案 参観授業のやり方

あなたはどんなタイプ向き? — 診断票

戸田正敏
東郷健二郎

意見

共通の話題を提供する場としての参観授業
参観授業はこう利用する
タイプ分けの観点を明確に
参観日には地味な授業を
黒崎宏一
金田道紀
相沢陽一
真柄二郎

参観授業から参加型授業へ — 保護者をまきこむ教材ネタ一覧

- | | |
|-----------------|-------|
| 国語・保護者をまきこむ教材ネタ | 阪部 保 |
| 社会・保護者をまきこむ教材ネタ | 竹川訓由 |
| 算数・保護者をまきこむ教材ネタ | 佐々原正樹 |
| 理科・保護者をまきこむ教材ネタ | 三上周治 |
| 生活・保護者をまきこむ教材ネタ | 高山佳己 |
| 音楽・保護者をまきこむ教材ネタ | 八木正一 |
| 体育・保護者をまきこむ教材ネタ | 山本貞美 |
| 図工・保護者をまきこむ教材ネタ | 坂井邦晃 |
| 道徳・保護者をまきこむ教材ネタ | 深澤 久 |

学期別参観授業の戦略ポイント

- | ●1学期 | ●2学期 | ●3学期 |
|-------------------|-------------------|---------------|
| どんな子に会いたいかな? 授業準備 | 子どもの可能性を知りたい 授業準備 | 成長した姿を示す 授業準備 |
| 1年 出水典克 | 1年 西村一夫 | 1年 千種彰典 |
| 2年 浅永剛司 | 2年 金川秀人 | 2年 地村俊彦 |
| 3年 八和田清秀 | 3年 小池哲也 | 3年 内山真之 |
| 4年 藤田哲夫 | 4年 荒木拓実 | 4年 加藤博一 |
| 5年 田村 勝 | 5年 千村 学 | 5年 目黒 了 |
| 6年 松島正弘 | 6年 濱田常義 | 6年 佐々木昭典 |
| 中学 吉田純一 | 中学 杉田知之 | 中学 藤井英之 |

ザ意外! 参観授業で見せた「あの子の半面」

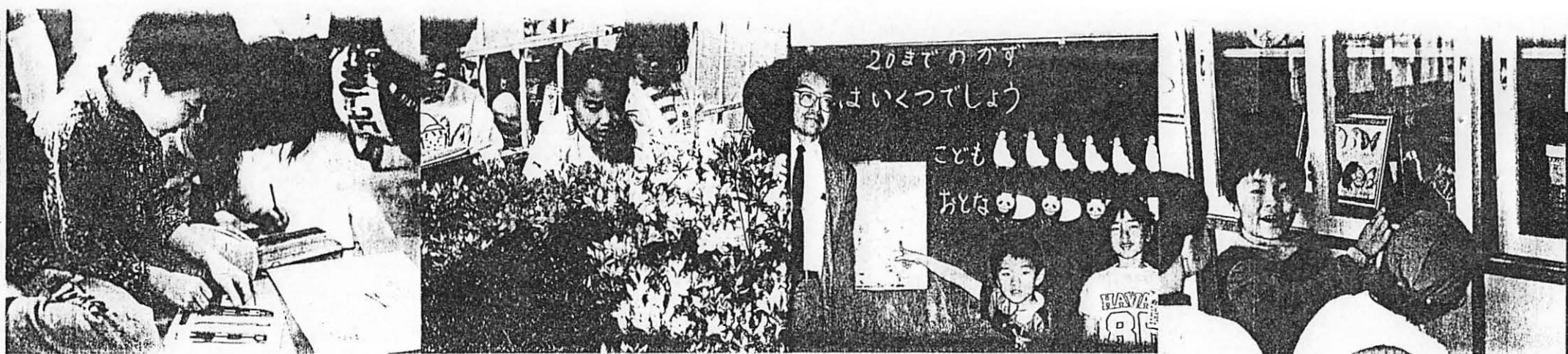
「借りて来た猫」になっちゃった二人の子
「家族お知らせ」の授業で家庭での親子の姿をとらえた
みんな発表したがってるんだ
「おかあさんといっしょ」から見えるもの
高田保彦
井戸紀子
舛田安生
青山新吾

連載講座

なぜなぜモデル マンガ考現学 マンガメディアは進化する、教科書は? 馬居政幸
わがクラスの知的冒険物語 みんなで盛り上がりつつある! 野田芳朗
往復書簡による 問題提起… 一番よい授業研究の方法とは 返信 有田和正
リレー討論 ホントにこれでもいいのかな? 「先生」という役割語 関口芳弘

研究会案内

静大附浜松小(3) 水戸市立常盤小(4) 滋賀県津田東小 岐阜県池田小 東京大附小金井小
井小 館山市立北条小(2) 静岡県立安東小(2) 沼津市立谷津小(2)
*表2: 授業に使える1枚の自作写真 *中原英雄 *表3: 4: 絵画指導の技術 *前田康裕
*本文カット *伊藤泉 *目次: 授業写真 *秋田県山形市海町直根小 高橋勲



授業研究 1992年10月号 No.3809

特集 自信がつく子どもオッチングの技術

トライしてみよう
あなたの子どもオッチングの態度

深谷昌志……五

子どもオッチングの腕をあげるポイント

教室の子どもオッチングのポイント……………佐藤幸司……ハ
休み時間の子どもオッチングのポイント……………依原正仁……三
家庭生活の子どもオッチングのポイント……………浦崎隆徳……六

授業の子どもオッチングをワッチングするポイント

国語科授業・子どもを伸ばすワッチング術……………横田経一郎……四
社会科授業・子どもを伸ばすワッチング術……………青柳 滋……元
算数科授業・子どもを伸ばすワッチング術……………後藤康志……四
理科授業・子どもを伸ばすワッチング術……………須藤芳文……元
生活科授業・子どもを伸ばすワッチング術……………早草 寛……四
体育科授業・子どもを伸ばすワッチング術……………池田純一……四
特別活動・子どもを伸ばすワッチング術……………三橋 勉……四

「関心・意欲・態度」評価のための子どもオッチング

低学年……………永島俊之……九
中学年……………大河内義雄……六
高学年……………外田安生……六
中学校……………笹尾秀登……六

「行動の記録」把握のため子どもオッチング術

低学年……………庭野三省……七
中学年……………榎本保喜……四
高学年……………森 康行……七
中学校……………黒木俊治……六

実践記録に学ぶ子どもオッチングの極意

有田実践にみる子どもオッチングの極意……………山口政之……八
築地実践にみる子どもオッチングの極意……………大森 修……六
大西実践にみる子どもオッチングの極意……………深澤 久……九
斎藤実践にみる子どもオッチングの極意……………秋田健一……六
堀川小の実践にみる子どもオッチングの極意……………浅永剛司……二〇

担任への信頼度診断

担任不在時の学級がどうなっているか

須田 尚……一〇八

連載講座

なぜなぜモデル マンガ考現学 教科書はマンガを越えられるか(その一)馬居政幸……二三
わがクラスの知的冒険物語 不思議発見がドラマを生む……………野田芳朗……二五
往復書簡による 問題提起…一番よい授業研究の方法とは……………往信 大屋雅由……三
リレー討論……………返信 池野正晴……三
ホントにこれでいいのかな? 「バカ」は作られるのつづきと……………関口芳弘……二七
君の思うように生きなさい……………

研究会案内

愛知教大附岡崎中(二)／富山県福野小・静大附静岡中(二)／諏訪市立高島小・芦屋市立三
条小(二)／池田市立池田小(二)／大阪教大附平野小(二)／

*表紙写真・モントレ *原・朝からユ・モ・サ・ことは遊び *鈴木潤裕
*表2…授業に使える1枚の自作写真 *菅原光敏 *表3・4…松岡信孝の技術 *前田康裕
*本文カット *伊藤泉 *目次…授業写真 *島市県横浜市立御幸場小・滝口義廣



小鳥のすに赤ちゃんがカエった

えさを食べにきたよ

小鳥のすばこはここいいかな

おーい、小鳥さん

特集 学級の平均点がアップする授業作戦

平均点に対するあなたの感覚はどのランク？

——年間平均点の推移はどうかアップすれば良いか——

有田和正

いつも平均点が良い教師・指導の秘密はどこか

個別指導と低学力児のアップがカギ

佐々木俊幸

ひとりひとりの指導をていねいに

酒井隆光

まず、子どもがのびのびと生きる場づくり

戸崎延子

“学習態度の向上”が平均点に結びつく

酒井 潔

慌てたこの平均点——どんな対策が効果をあげるか

■国語

漢字書きとりテスト・平均点の向上策

目黒 修

説明文の読解テスト・平均点の向上策

伴 一孝

文学教材の読解テスト・平均点の向上策

千葉幹雄

■社会

写真資料の読みとりテスト・平均点の向上策

渡部栄二

統計資料の読みとりテスト・平均点の向上策

増田義人

地図資料の読みとりテスト・平均点の向上策

三留利夫

計算ドリルのテスト・平均点の向上策

永富英雄

文章題のテスト・平均点の向上策

黒崎宏一

図形問題のテスト・平均点の向上策

志村公二

■理科

科学的思考力のテスト・平均点の向上策

神垣鉄雄

観察・実験技能のテスト・平均点の向上策

佐々木 真

知識・理解に関するテスト・平均点の向上策

森 康行

◆すぐ効果が出る平均点アップの指導対策

効果のある学習習慣のつけ方

山本順治

効果のある習熟練習のし方

奥平厚洋

効果のある宿題の条件

本間佳徳

効果のある朝学習の条件

勝間田吉彦

効果のある自学のメニュー

中嶋 敦

効果のある記憶・暗記術

伊藤浩行

効果のある学び方とは

中田寿幸

●平均点アップの学級助け合い指導の方法

松本健治

●平均点よりいっしょに成績の子への指導の手だて

中野浩彰

1・2年 平均点より悪い成績の子への指導

山本由美子

3・4年 平均点より悪い成績の子への指導

矢野敏昭

5・6年 平均点より悪い成績の子への指導

末永賢行

中学生 平均点より悪い成績の子への指導

瀧沢広人

連載講座

なぜなぜモデル マンガ考現学 教科書はマンガを越えられるか(その2) 馬居政幸

往信 勝又明幸

わがクラスの知的冒険物語 夏休みはドラマの宝庫だ

野田芳朗

研究会案内

第29回全社研香川大会(金沢市大徳中) 愛知県上野中 新潟県大野中 新潟県大野中 新潟県大野中

*本文カット *伊藤泉 *日次・授業生活目・小鳥と友だちになろう *写真 *水戸市立常盤小 井戸紀子



特集 通知表「わくわくホメ言葉と漬す一言」

●500字アンケート●新通知表「一番気をつけているところはどこかと聞かれたら

「ちょっと待ってー」その表記

ちよっと待ってー その表記
同じ言うなら「この言葉」を使おう

野口芳宏・八

◆子どもが元気になる表現と漬す一言

- | | | |
|----------------------|--------------|--------------|
| 小1観点別所見文・わくわく用語と漬す一言 | 「生活行動」佐藤則子…… | |
| 「学習」……古川光弘…… | 「特別活動」加藤靖和…… | |
| 小2観点別所見文・わくわく用語と漬す一言 | 「学習」……金川秀人…… | 「特別活動」石井明子…… |
| 小3観点別所見文・わくわく用語と漬す一言 | 「学習」……宮内 淳…… | 「特別活動」石川創末…… |
| 小4観点別所見文・わくわく用語と漬す一言 | 「学習」……大串正弘…… | 「特別活動」相庭良規…… |
| 小5観点別所見文・わくわく用語と漬す一言 | 「学習」……迫田 弘…… | 「特別活動」寺田 聡…… |
| 小6観点別所見文・わくわく用語と漬す一言 | 「学習」……志鷹佐吉…… | 「特別活動」中田 稔…… |
| 中1観点別所見文・わくわく用語と漬す一言 | 「学習」……荻野 勝…… | 「特別活動」長瀬莊一…… |
| 中2観点別所見文・わくわく用語と漬す一言 | 「学習」……菱谷光雄…… | 「特別活動」高橋正和…… |
| 中3観点別所見文・わくわく用語と漬す一言 | 「学習」……小川幸男…… | 「特別活動」三浦敦男…… |

◆困った子どもの実態の表記Ⅱこの文例で変えよう

- 学習についての困った事項の表記Ⅱこの文例で変えよう
- 「授業中目立たない子」……山崎忠男……「努力の割に成績の上がらない子」林 知義……
 - 「発表をする割にテストの悪い子」桜木泰自……「家庭学習に問題のある子」北村善重……
 - 「やればできるのに努力しない子」青柳 滋……「授業に真剣さが力ける子」横山 修……
 - 「学習に積極さが足りない子」武部浩和……
- 特別活動についての困った事項の表記Ⅱこの文例で変えよう
- 「学級活動」……成沢 一郎……「児童会」……横石政樹……「生徒会」……阿部 昇……
 - 「クラブ活動」津戸弘光……「学級行事」篠山耕一……
- 生活行動についての困った事項の表記Ⅱこの文例で変えよう
- 「忘れ物の多い子」……岡田登茂子……「無気力な子」……成田 哲……
 - 「わがままな子」……高橋祥一……「しばしば決まりを破る子」伊藤孝之……
 - 「孤立しがちな子」……橋本定男……「だらしない子」……建野真哉……
 - 「友達とよくトラブル子」池岡正康……「責任感が薄いのではと思われる子」市川英貴……
 - 「自主性にかけがちな子」赤石賢司……「思いやりに力ける子」……井戸垣忠男……

連載講座

なぜなぜモデルマンガ考現学 教科書がマンガを超えるための条件(その一)馬居政幸……

わがクラスの知的冒険物語 追究の醍醐味を味わう時……野田芳朗……

往復書簡による
リレー討論 問題提起…一番よい授業研究の方法とは……往信 山田隆弘……
返信 野口芳宏……

ホントにこれでいいのかな? 「理論」は「法則」のなかに内在しているのか……関口芳弘……

研究会案内

奈良女子大附属小・生活科教育を語る会・複式教育を語る会・浜松市北小・成城学園小・東京学芸大附属竹早小(六五)／愛知教大附属養護学校(九七)／第2回学習ゲーム講座……

(九七)大阪教大附属池田小(九七)／長野県三郷小(二六)

*表紙写真「モントレ」*扉・朝からユーモア・サ・ことは遊び*鈴木清隆

*表2…授業に使える1枚の自作写真*阪部 保*表3・4…絵画指導の技術*前田康裕

*本文カット*伊藤泉 *目次…授業写真*(福島県伊達郡二五戸小)星野裕二



ティバートの授業「(国語)花と手品師」を読んで手品師の生き方に賛成か反対か—反論をしている



ティバートの授業「新聞がよいか、テレビがよいか」—立論をまとめている

特集 学年末に向けた「プロ」の3学期戦略

◆一年間を見通して—3学期だからやれること・やりたいこと

山中伸之・神部純一・俵原正仁・阿部肇・北岡隆行・大塚サチ子…五

2学期が終つて—陥りがちな問題点と3学期計画のポイント

- 1年で気になる点と3学期計画のポイント……………白川けい子…七
- 2年で気になる点と3学期計画のポイント……………山田知津枝…一〇
- 3年で気になる点と3学期計画のポイント……………宮島孝仁…一五
- 4年で気になる点と3学期計画のポイント……………三浦一富…一八
- 5年で気になる点と3学期計画のポイント……………三井春江…二〇
- 6年で気になる点と3学期計画のポイント……………山口浩…二二
- 中学で気になる点と3学期計画のポイント……………中村文義…二四

ベテランに聞く—見落としがちな「指導の穴」と「回復への処方箋」

- 国語で見落としがちな「指導の穴」と「回復への処方箋」……………佐々木俊幸…一〇
- 社会で見落としがちな「指導の穴」と「回復への処方箋」……………有田和正…一五
- 算数で見落としがちな「指導の穴」と「回復への処方箋」……………横山駿也…一八
- 理科で見落としがちな「指導の穴」と「回復への処方箋」……………小森栄治…二〇
- 英語で見落としがちな「指導の穴」と「回復への処方箋」……………大鐘雅勝…二五
- 学年末に向けて—気になる点の発見法と指導の強化策……………佐長健司…二七
- ノートからの発見法と指導の強化策……………神藤安之…二九
- 発言からの発見法と指導の強化策……………松橋浩行…三六
- テストからの発見法と指導の強化策……………

嫌な予感がする問題点はどうして攻略

- 教科書に未消化ページが出そう・どうしたらよいか……………小池哲也…九
- 副読本に未消化ページが出そう・どうしたらよいか……………小松 眞…一八
- 市販ワークに未消化ページが出そう・どうしたらよいか……………藤川信利…二〇
- 市販テストに未消化ページが出そう・どうしたらよいか……………安住順一…二二
- 「気になるあの子」の3学期対策・私のパワーアップ術……………植田善太郎…二五
- 学習習慣がついてない子の3学期対策……………立田順一…二六
- 学習が遅れがちな子の3学期対策……………小林正樹…二七
- 無気力な子の3学期対策……………高橋 豊…二八
- 落ち着かない子の3学期対策……………千葉昌之…二九
- のろい子の3学期対策……………森 透…三〇
- ケアレスミスの多い子の3学期対策……………

学習塾の現場発「子どもと教師の本音」

地蔵原 満…二三

連載講座

なぜなぜモデル マンガ考現学 教科書がマンガを超えるための条件(その二) 馬居政幸…二七
わがクラスの知的冒険物語 毛利さん、ありがとう…野田芳朗…二〇
往復書簡による 問題提起…一番よい授業研究の方法とは……………往信 浜上 薫…二六
リレー討論……………返信 落合幸子…二六

研究会案内

信州大附属長野小(三)／広島大附属三原小(三)／第2回学習ゲーム講座 in 甲府西(一)／
横浜国大附属鎌倉小(一)

*表紙写真…モントレ *扉・朝からユーマ・サ・ことは遊び*鈴木清隆
*表2…授業に使える1枚の自作写真*大津和子*表3・4…絵画指導の技術*前田康裕
*本文カット*伊藤泉 *目次…授業写真*三重県四日市市東橋北小(一)山川 亨

特集 学年末が輝く「学習イベント」のネタ

◆500字アンケート 学習にかかわるイベント・どんなことが可能か

武田恭宗・山本 浩・足立賢治・川嶋 岳・横濱佳子

佐藤千佳夫・岡島昌幸・西村 勝・新井芳彦

●「学ぶことは楽しい」を実感させる 私の好きな「名言・名句・小話」

庄司和晃・有田和正・堀内 守

●学習のイベント化＝特別な日にすること、普通の日にできること

西尾 一・都田康弘・川本順一・河田孝文

「学習イベント」を印象づける私の演出法

「参観日の授業」演出のポイント……………福壽真一郎

「学習発表会」演出のポイント……………長下崇寿

「卒業学年最後の授業」演出のポイント……………奥平厚洋

「学芸会行事」演出のポイント……………加藤辰雄

学年最後の授業が輝くネタと演出のポイント

国語 学年最後の授業が輝くネタと演出のポイント……………横田経一郎

社会 学年最後の授業が輝くネタと演出のポイント……………波 蔵

算数 学年最後の授業が輝くネタと演出のポイント……………今井津子

理科 学年最後の授業が輝くネタと演出のポイント……………安河内 功

生活科 学年最後の授業が輝くネタと演出のポイント……………若手三喜雄

音楽 学年最後の授業が輝くネタと演出のポイント……………今成陸夫

体育 学年最後の授業が輝くネタと演出のポイント……………盛島 寛

図工 学年最後の授業が輝くネタと演出のポイント……………伊藤晴徳

道徳 学年最後の授業が輝くネタと演出のポイント……………内海俊行

特活 学年最後の授業が輝くネタと演出のポイント……………関原 潔

感動をよぶ学年末「スペシャル授業」のネタ

1年 感動をよぶ学年末「スペシャル授業」のネタ……………伏島 均

2年 感動をよぶ学年末「スペシャル授業」のネタ……………佐藤正寿

3年 感動をよぶ学年末「スペシャル授業」のネタ……………杉森 至

4年 感動をよぶ学年末「スペシャル授業」のネタ……………大田博之

5年 感動をよぶ学年末「スペシャル授業」のネタ……………相庭良規

6年 感動をよぶ学年末「スペシャル授業」のネタ……………勝又明幸

中1 感動をよぶ学年末「スペシャル授業」のネタ……………河村則彦

中2 感動をよぶ学年末「スペシャル授業」のネタ……………大谷和明

中3 感動をよぶ学年末「スペシャル授業」のネタ……………永田 研

連載講座 なぜなぜモデル マンガ考現学 マンガと社会認識の多元性

わがクラスの知的冒険物語 一年生だつてくぐん知的に成長する……………小山弘一

リレ―討論 問題提起…一番よい授業研究の方法とは……………返信 岡坂慎一

研究会案内 信州大附属長野小(二)／法制化体育上達講座in高松・学習ゲームin千葉(六)／第3回生活科教育研究会(三)／広島大附属三原小・大阪市小学校教育研究会(二五)

*表紙写真…モントレ *扉…朝からユーマ・ザ・ことは遊び…鈴木潤隆
表2…授業に使える1枚の自作写真 野田芳朗 *表3・4…絵画指導の技術*前田康裕
*本文カット*伊藤泉 *目次…授業写真*(群馬県佐波郡)南小・中村秀樹



特集 個に応じた「多様な指導」の具対策

【最新情報】 個に応じた「多様な指導」はどの構想されているか……新井郁男…五
 個に応じた「多様な指導」と一斉指導の問題点……加藤幸次…二〇

先進校に聞くⅡ個に応じた「多様な指導」導入にあたって

ティーム・ティーチング導入の留意点はどこか……………山下 透…五
 コンピュータ導入の留意点はどこか……………長南博昭…三
 オープンスペース活用の留意点はどこか……………永井一美…七
 選択教科導入の留意点はどこか……………熊谷伸賢…三

■個に応じた「多様な指導」の具策

どんな「学習環境」ならよいのか……………方波見守一…九
 どんな「語りかけ」ならよいのか……………平山 仁…四
 どんな「助言」ならよいのか……………河内澄行…四
 どんな「援助」ならよいのか……………山崎信茂…四
 どんな「評価」ならよいのか……………比屋根為勝…五

◆「時と場」に応じた「多様な指導」のあり方

学習意欲を促す「多様な指導」のあり方……………雄川美勝…四
 学習の目あてを促す「多様な指導」のあり方……………加留部謹一…五
 発言を促す「多様な指導」のあり方……………田山修三…三

遅れそうな時の「多様な指導」のあり方……………小林芳春…六
 気づかせたい時の「多様な指導」のあり方……………神本政雄…七
 本人の自覚を促す「多様な指導」のあり方……………宮川啓一…七

◆個に応じた「多様な指導」いつどつ使うか

国語科授業で使える個に応じた「多様な指導」とは……………室橋初枝…六
 社会科授業で使える個に応じた「多様な指導」とは……………高貝正志…八
 算数科授業で使える個に応じた「多様な指導」とは……………手島勝朗…八
 理科授業で使える個に応じた「多様な指導」とは……………芝村 巧…九
 生活科授業で使える個に応じた「多様な指導」とは……………津川 裕…九
 体育科授業で使える個に応じた「多様な指導」とは……………鶴屋義照…九
 英語科授業で使える個に応じた「多様な指導」とは……………長瀬莊一…二〇

●学び方技能をつける「多様な指導」のアイデア

吉永幸司・大越和孝・浅井孝信・内田 弘・金子延幸……………一八
 田中 聡・津室和彦・松田倫明・斎藤郁史……………二八

連載講座

なぜなぜモデル マンガ考現学 マンガリテラシーと新しい学力観……………馬居政幸…二七
 わがクラスの知的冒険物語 ああ、山手線物語……………野田芳朗…二〇
 往復書簡による 問題提起…一番よい授業研究の方法とは……………往信 黒崎宏一…二六
 リレー討論……………返信 齋藤 勉……………二六

研究会案内

お茶の水女子大附小(三)／有田先生を追悼する会(五)

*表紙写真・モントレ *扉・朝からユーモア・サ・ことは遊び *鈴木清隆
 *表2…授業に使える1枚の自作写真 *小西正雄 *表3・4…絵画指導の技術 *前田康裕
 *本文カット *伊藤泉 *目次…授業写真 *岐阜県各務原市少年自然の家指導主事 岡司義勝

